2026 年度

経営学研究科

講 義 概 要

北海学園大学大学院

目　　次

大学院経営学研究科　授業科目及び講義要項
修士課程
北海学園大学の３つのポリシー／大学院 …… 3
経営学研究科の３つのポリシー …… 4
講義科目履修モデルについて …… 6
経営学研究科修士課程講義科目履修モデル表 …… 8
授業科目・単位数及び担当者一覧【2026（令和８）年度以降入学生】…… 9
授業科目・単位数及び担当者一覧【2024（令和６）年度以前入学生】…… 11
講義要項 …… 13
博士（後期）課程
授業科目・単位数及び担当者一覧【2024（令和６）年度以前入学生】…… 59
講義要項 …… 61

北海学園大学の３つのポリシー／大学院

ディプロマ・ポリシー（学位授与方針）

北海学園大学は，建学の精神および本学の使命・目的ならびに大学院の目的に基づき，次の要件を満たした人に修士課程及び博士（後期）課程における学位を授与します。

１．修士課程においては，将来にわたって持続的に研究活動を行うに足る専攻分野における基礎的かつ汎用的な研究能力，またはこれに加えて高度の専門性を要する職業等に必要な高度の能力，およびその基礎となる広い視野に立った学識を身につけている。

２．博士（後期）課程においては，専攻分野について研究者として自立して研究活動を行い，またはその他の専門的な業務に従事するに必要な高度の研究能力，およびその基礎となる人間・社会・自然に対する深い学識を身につけている。

３．修士課程・博士（後期）課程ともに，研究倫理に関する高い規範意識を身につけている。

カリキュラム・ポリシー（教育課程編成方針）

北海学園大学は，修士課程および博士（後期）課程における学位授与方針に基づき，次の方針にしたがい，大学院の教育課程を編成します。

１．修士課程においては，将来にわたって持続的に研究活動を行うに足る専攻分野における基礎的かつ汎用的な研究能力，またはこれに加えて高度の専門性を要する職業等に必要な卓越した能力，およびその基礎となる広い視野に立った学識を養うための系統的な授業配置と研究指導を行う。

２．博士課程においては，専攻分野について研究者として自立して研究活動を行い，またはその他の専門的な業務に従事するに必要な高度の研究能力，およびその基礎となる人間・社会・自然に対する深い学識を養うための系統的な科目配置と研究指導を行う。

３．修士課程・博士（後期）課程ともに，「北海学園大学研究活動の基本精神及び行動規範」および「北海学園大学研究活動上の不正行為に関する規程」に基づき，学生が研究倫理に関する高い規範意識を養うための指導を行う。

以上の方針に基づき，各研究科ごとに詳細な教育課程編成方針が掲げられています。

アドミッション・ポリシー（入学者受入方針）

北海学園大学は，建学の精神，大学院の目的および修士課程および博士（後期）課程における学位授与方針と教育課程編成方針に基づき，次の要件を満たした人を大学院に受け入れます。

１．本学の建学の精神と入学しようとする研究科・専攻の教育理念や教育内容を理解し，共感する人

２．人間・社会・自然および専攻分野に対する強い問題関心と，自ら課題を設定して探究するに足る基礎的学力を有する人

３．将来，研究や専門的業務に従事し，人間・社会・自然と共生しうる新たな知を創造することで，人類の福祉と文化の進展に寄与する意欲と責任感を兼ね備えた人

経営学研究科の３つのポリシー

ディプロマポリシー（学位授与方針）

修士課程においては，所定の修業年限および修得単位を満たし，修士論文審査に合格した者に対し修士（経営学）の学位を授与します。修士の学位を授与された者は，課題を探求し，解決する能力を備えた実践的研究者及び高度職業人として，社会の各分野で活躍しうる人材と認められたことになります。

博士（後期）課程においては，所定の修業年限および修得単位を満たし，博士論文審査に合格した者に対し博士の学位（経営学）を授与します。博士の学位を授与された者は，既存原理への問題提起や新原理の探求を行いうる高度な研究能力を有し，学識豊かな実践的研究者及び指導的な高度職業人として，広く社会および学会に貢献しうる人材と認められたことになります。博士論文提出後は公開の報告会を義務付けるとともに広く研究成果を公開しています。

カリキュラムポリシー（教育課程編成の方針）

経営学研究科は，専門的な学術の理論を教授し，専攻分野における研究能力を養い，21 世紀の国際社会及び地域経済社会に貢献する学識豊かな実践的研究者及び高度職業人の育成を目的としています。

修士課程においては，講義・演習・修士論文の作成の３つの柱から，カリキュラムを構成しています。講義科目は，組織経営，組織情報，組織心理の３つに大別されます。２単位の講義科目をいかに組み合わせるかによって，８つの講義科目履修モデルが提示されており，履修のためのガイドラインとなっています。修士課程での演習では，指導教授によって２年間継続的に指導がなされ，修士論文の作成を目指すことになります。中間報告会を実施して，論文の完成度を高めています。

博士（後期）課程においては，特殊研究による指導教授の講義と博士論文の作成が主に行われます。指導教授による論文作成のための指導は３年間継続して行われます。博士（後期）課程においても中間報告会を実施して，論文の完成度を高めています。また，修士課程・博士（後期）課程いずれにおいても，院生のほとんどは社会人のため夜間・土曜日の開講を積極的に推し進めています。

アドミッションポリシー（入学者受入方針）

社会・経済・文化においてグローバリゼーションが進行する今日，企業など組織を取り巻く環境は著しく変化しています。こうした中，経営学研究科は，これからの時代が求める広い領域の知識や技術と関心をあわせ持った「新しい専門家」や「高度の研究者」を育成することを目的としています。特に，社会人にとっては自らの職業から得られる経験を生かしながら，その経験をさらに充実・深化させ，さらには大きく飛躍するために，本大学院で学ぶことは有意義となるでしょう。こうした目的および認識から，本研究科では経営学専攻の修士課程・博士（後期）課程を設け，以下のような人を求めています。

・組織に生起する経営現象について，組織経営，組織情報，組織心理の側面からその原理を探求しようとする強い熱意を持つ人。
・組織経営，組織情報，組織心理の研究成果を総合し融合することで，組織に生起する経営現象の解明を志す人。
・職場で生起する課題を常に強く意識し，その解決に向けて果敢に取り組もうとする人。

〔修 士 課 程〕

授業科目及び講義要項

講義科目履修モデルについて

修士課程での学習と研究をより適切に推進するため履修計画策定の参考になるよう，講義科目履修モデルを次の８モデルとする。

⑴ 講義科目履修モデル

① 「組織マネジメント」　② 「マーケティングマネジメント」
③ 「企業・社会マネジメント」　④ 「会計ファイナンスマネジメント」
⑤ 「情報マネジメント」　⑥ 「教育マネジメント」
⑦ 「心理マネジメント」　⑧ 「医療マネジメント」

⑵ 各履修モデルの趣旨

① 「組織マネジメント」モデル

経営者や管理者などのマネジャーとして，組織をどのように運営していけば良いのかに興味を持つ者を対象とする。マネジャーが取り組む組織やチーム，集団等のマネジメントに関する専門知識を，経営学分野および心理学分野にまたがって習得していく。さらに，マネジャーが直接的にマネジメントする組織だけではなく，組織をつうじて間接的にアプローチする外部環境（顧客や競合企業等）との関係性構築に関わる専門知識までを対象とする。

② 「マーケティングマネジメント」モデル

企業等がその外部環境である顧客や他企業とどのような関係性を構築していくことで競争優位を獲得していくことができるのかに興味を持つ者を対象とする。経営者や管理者などのマネジャーが競争優位を獲得するために取り組む，顧客および競合企業等との関係性構築のマネジメントについて重点的に学ぶ。特に，マーケティング論，競争戦略論の分野における議論に力点をおきながら，関連する経営管理に関する知見および心理学分野の専門知識を合わせて習得し，競争優位獲得のためのマネジメントを総合的に学ぶ。

③ 「企業・社会マネジメント」モデル

社会的な存在としての企業や団体がどのような行動を取っていくべきか，どうあるべきかについて興味を持つ者を対象とする。経営者などとしての視点から企業・団体の経営を検討するだけでなく，より俯瞰的な視点から企業・団体のあるべき姿を探求していく。特に，社会において企業が望ましい経営を行うためにどのようなガバナンスを必要とするのか，よりマクロな流通や金融のシステムの中で企業・団体がどのような行動，あり方をするべきか等について，経営学の専門的知見を幅広く横断的に習得していく。

④ 「会計ファイナンスマネジメント」モデル

経営組織における会計情報の活用とファイナンスについて問題意識をもち，専門的に学びたい者，あるいは学際的に学びたい者を対象とする。具体的には，企業などで会計・税務・原価計算・監査などの専門業務を担当する者，ファイナンス部門の担当者，トップマネジメントを支援する経営企画部門の担当者，生産や営業の現場で計数管理の責任を担う者，税理士・会計士志望者，さらには

広く会計やファイナンスに問題意識をもち，関心のある者である。

「専門的に学ぶ」とは，会計が，企業などの経済主体やその中での人々の経営活動を会計固有の測定メカニズムに従ってさまざまな数値に写し取る行為であることから，その固有のメカニズムを一定のパラダイムのなかで求められる会計の役割・機能との関係で専門的にアプローチし，研究することを意味する。また，「学際的に学ぶ」とは，会計によって生み出された数値が，企業のファイナンスや経営戦略，株主や取引先・従業員などの企業内外の関係者の行動，企業内の人事，企業の内部組織やグループ組織の設計など，広範囲にときに決定的に企業の盛衰に影響を与え，かつその影響が双方向の性格をもつことから，専門の垣根をはらって他分野（組織経営，組織情報，組織心理）の知見との融合をめざして学際的にアプローチし，研究することを意味する。

⑤ 「情報マネジメント」モデル

経営組織における情報の活用について学びたい方を対象とする。具体的には，経営情報システムや意思決定支援システムなど，システム的な思考に関心のある方，コンピュータやネットワークといった情報通信技術（ICT）の知識を深め，それらを経営組織に活用することに関心のある方，情報という視点に立ち，組織においてどのように情報を管理，蓄積，伝達，発信したら良いかを考察したい方に適している。

⑥ 「教育マネジメント」モデル

対象は広く教育に関わる者とする。具体的には，学校の教職員（看護教員を含む）や企業内教育担当者，教育行政に関わる自治体職員，PTA 活動等に関心のある主婦などを想定している。主として学習，発達，臨床，障害といった教育心理学領域の専門的知識を修得させ，それらの知見をいかに教育的な組織・集団のマネジメントへと活用するかを，経営学領域の科目も併せて履修させることによって考察させる。

⑦ 「心理マネジメント」モデル

対象は広く人間の社会的な行動や心理に関心を持つ者とする。具体的には，様々な組織で人事労務管理を担当する者あるいはそのあり方に問題意識を持つ者，また消費者の選択行動を予測してマーケティングや広告宣伝に活かそうとする者，その他集団内での個人の行動や対人関係における心理的プロセスに関心を持つ者などを想定している。主として組織や社会，意思決定，認知過程といった心理学領域の専門的知識を修得させるとともに，経営学やマーケティングに関する知見も併せて得させることによって，人間の社会的な行動をマネジメントできる視座を培う。

⑧ 「医療マネジメント」モデル

現職の看護師，助産師，保健師，および看護教員を対象とする。具体的には，広く看護師長，看護部長，あるいはそれに準ずる看護の職責にある者が，「人を管理する立場」として人的資源管理やチーム運営の難しさを実感している方，自身の将来的キャリアについて問題意識を持っている方，また，医療の在り方あるいは病院経営などについて疑問を持っており，客観的に研究したいという問題意識を持っている方に適した履修モデルとなっている。

経営学研究科修士課程講義科目履修モデル表（各２単位）

開講科目	担当者名	組織マネジメント	マーケティングマネジメント	企業・社会マネジメント	会計ファイナンスマネジメント	情報マネジメント	教育マネジメント	心理マネジメント	医療マネジメント
アカデミック・リサーチ	複数の教員	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎
経営管理論特殊講義	佐藤　大輔	◎	○		○	○	○	○	○
経営組織論特殊講義	中村　暁子	◎				○	○	○	◎
経営戦略論特殊講義	今野　喜文	○	◎	◎	○	○			
人的資源管理論特殊講義	大石　雅也	◎		○			○	○	◎
国際経営論特殊講義	菅原　秀幸	◎		○					
経営史特殊講義	近藤　弘毅	◎	○	○					
企業行動論特殊講義	金　　倫廷		◎	◎					
現代企業論特殊講義	石嶋　芳臣			◎	○	○			
企業と社会特殊講義	春日　　賢			◎					
マーケティング・マネジメント特殊講義	伊藤　友章	○	◎			○	○	○	○
マーケティング・コミュニケーション特殊講義	下村　直樹		◎					○	
ファイナンス論特殊講義	赤石　篤紀		○	○	◎				
非営利事業論特殊講義	菅原　浩信			◎	○				○
会計学特殊講義	庄司　樹古				◎				
財務会計論特殊講義	高木　裕之			○	◎				
原価計算特殊講義	今村　　聡				◎				
経営情報論特殊講義	天笠　道裕				○	◎			
情報システム論特殊講義	関　　哲人		○		○	◎			
情報コミュニケーション論特殊講義	福永　　厚					◎	○	○	
情報処理論特殊講義	上田　雅幸					◎			
組織心理学特殊講義	増地あゆみ	◎			○	○	○	◎	◎
社会心理学特殊講義	中川　裕美	◎	○	○			○	◎	○
行動意思決定論特殊講義	鈴木　修司	◎	◎				○	◎	◎
学習心理学特殊講義	佐藤　　淳	○					◎	○	
発達心理学特殊講義	進藤　将敏	◎					◎	○	
認知心理学特殊講義	浅村　亮彦	○	○				○	◎	○
心的障害マネジメント特殊講義	田村　卓哉						◎	◎	
臨床心理学特殊講義	田中　勝則							◎	○

授業科目・単位数及び担当者一覧［修士課程］【2026（令和８）年度以降入学生】

授業科目		単位数	担当者	備考
	アカデミック・リサーチ	2	複数の教員	
組織経営関連科目	経営管理論特殊講義	2	佐藤　大輔	
	経営管理論特殊講義演習Ⅰ	4		
	経営管理論特殊講義演習Ⅱ	4		２年次開講
	経営組織論特殊講義	2	中村　暁子	
	経営組織論特殊講義演習Ⅰ	4		
	経営組織論特殊講義演習Ⅱ	4		２年次開講
	経営戦略論特殊講義	2	今野　喜文	
	経営戦略論特殊講義演習Ⅰ	4		
	経営戦略論特殊講義演習Ⅱ	4		２年次開講
	人的資源管理論特殊講義	2	大石　雅也	
	人的資源管理論特殊講義演習Ⅰ	4		
	人的資源管理論特殊講義演習Ⅱ	4		２年次開講
	国際経営論特殊講義	2	菅原　秀幸	
	国際経営論特殊講義演習Ⅰ	4		
	国際経営論特殊講義演習Ⅱ	4		２年次開講
	経営史特殊講義	2	近藤　弘毅	
	経営史特殊講義演習Ⅰ	4		
	経営史特殊講義演習Ⅱ	4		２年次開講
	企業行動論特殊講義	2	金　　倫廷	
	企業行動論特殊講義演習Ⅰ	4		
	企業行動論特殊講義演習Ⅱ	4		２年次開講
	現代企業論特殊講義	2	石嶋　芳臣	
	現代企業論特殊講義演習Ⅰ	4		
	現代企業論特殊講義演習Ⅱ	4		２年次開講
	企業と社会特殊講義	2	春日　　賢	
	企業と社会特殊講義演習Ⅰ	4		
	企業と社会特殊講義演習Ⅱ	4		２年次開講
	マーケティング・マネジメント特殊講義	2	伊藤　友章	
	マーケティング・マネジメント特殊講義演習Ⅰ	4		
	マーケティング・マネジメント特殊講義演習Ⅱ	4		２年次開講
	マーケティング・コミュニケーション特殊講義	2	下村　直樹	
	マーケティング・コミュニケーション特殊講義演習Ⅰ	4		
	マーケティング・コミュニケーション特殊講義演習Ⅱ	4		２年次開講
	ファイナンス論特殊講義	2	赤石　篤紀	
	ファイナンス論特殊講義演習Ⅰ	4		
	ファイナンス論特殊講義演習Ⅱ	4		２年次開講
	非営利事業論特殊講義	2	菅原　浩信	
	非営利事業論特殊講義演習Ⅰ	4		
	非営利事業論特殊講義演習Ⅱ	4		２年次開講

（次頁につづく）

（前頁より）

授業科目		単位数	担当者	備考
組織情報関連科目	会計学特殊講義	2	庄司　樹古	
	会計学特殊講義演習Ⅰ	4		
	会計学特殊講義演習Ⅱ	4		2年次開講
	財務会計論特殊講義	2	高木　裕之	
	原価計算特殊講義	2	今村　　聡	
	原価計算特殊講義演習Ⅰ	4		
	原価計算特殊講義演習Ⅱ	4		2年次開講
	経営情報論特殊講義	2	天笠　道裕	
	経営情報論特殊講義演習Ⅰ	4		
	経営情報論特殊講義演習Ⅱ	4		2年次開講
	情報システム論特殊講義	2	関　　哲人	
	情報システム論特殊講義演習Ⅰ	4		
	情報システム論特殊講義演習Ⅱ	4		2年次開講
	情報コミュニケーション論特殊講義	2	福永　　厚	
	情報コミュニケーション論特殊講義演習Ⅰ	4		
	情報コミュニケーション論特殊講義演習Ⅱ	4		2年次開講
	情報処理論特殊講義	2	上田　雅幸	
	情報処理論特殊講義演習Ⅰ	4		
	情報処理論特殊講義演習Ⅱ	4		2年次開講
組織心理関連科目	組織心理学特殊講義	2	増地あゆみ	
	組織心理学特殊講義演習Ⅰ	4		
	組織心理学特殊講義演習Ⅱ	4		2年次開講
	社会心理学特殊講義	2	中川　裕美	
	社会心理学特殊講義演習Ⅰ	4		
	社会心理学特殊講義演習Ⅱ	4		2年次開講
	行動意思決定論特殊講義	2	鈴木　修司	
	行動意思決定論特殊講義演習Ⅰ	4		
	行動意思決定論特殊講義演習Ⅱ	4		2年次開講
	学習心理学特殊講義	2	佐藤　　淳	（令和7・8年度　開講せず）
	学習心理学特殊講義演習Ⅰ	4		（令和7・8年度　開講せず）
	学習心理学特殊講義演習Ⅱ	4		（令和7・8年度　開講せず）2年次開講
	発達心理学特殊講義	2	進藤　将敏	
	発達心理学特殊講義演習Ⅰ	4		
	発達心理学特殊講義演習Ⅱ	4		2年次開講
	認知心理学特殊講義	2	浅村　亮彦	
	認知心理学特殊講義演習Ⅰ	4		
	認知心理学特殊講義演習Ⅱ	4		2年次開講
	心的障害マネジメント特殊講義	2	田村　卓哉	
	臨床心理学特殊講義	2	田中　勝則	
	臨床心理学特殊講義演習Ⅰ	4		
	臨床心理学特殊講義演習Ⅱ	4		2年次開講
論文指導科目	論文指導Ⅰ	2	各担当教員	2年次開講※
	論文指導Ⅱ	2		2年次開講※

※論文指導Ⅰ・Ⅱの開講学期については各担当教員に確認してください。

授業科目・単位数及び担当者一覧［修士課程］【2024（令和６）年度以前入学生】

授業科目		単位数	担当者	備考
	アカデミック・リサーチ	2	複数の教員	
組織経営関連科目	経営管理論特殊講義	2	佐藤　大輔	
	経営管理論特殊講義演習Ⅰ	4		
	経営管理論特殊講義演習Ⅱ	4		２年次開講
	経営組織論特殊講義	2	中村　暁子	
	経営戦略論特殊講義	2	今野　喜文	
	経営戦略論特殊講義演習Ⅰ	4		
	経営戦略論特殊講義演習Ⅱ	4		２年次開講
	人的資源管理論特殊講義	2	大石　雅也	
	人的資源管理論特殊講義演習Ⅰ	4		
	人的資源管理論特殊講義演習Ⅱ	4		２年次開講
	国際経営論特殊講義	2	菅原　秀幸	
	国際経営論特殊講義演習Ⅰ	4		
	国際経営論特殊講義演習Ⅱ	4		２年次開講
	経営史特殊講義	2	近藤　弘毅	
	経営史特殊講義演習Ⅰ	4		
	経営史特殊講義演習Ⅱ	4		２年次開講
	企業行動論特殊講義	2	金　　倫廷	
	企業行動論特殊講義演習Ⅰ	4		
	企業行動論特殊講義演習Ⅱ	4		２年次開講
	現代企業論特殊講義	2	石嶋　芳臣	
	現代企業論特殊講義演習Ⅰ	4		
	現代企業論特殊講義演習Ⅱ	4		２年次開講
	企業と社会特殊講義	2	春日　　賢	
	企業と社会特殊講義演習Ⅰ	4		
	企業と社会特殊講義演習Ⅱ	4		２年次開講
	マーケティング・マネジメント特殊講義	2	伊藤　友章	
	マーケティング・マネジメント特殊講義演習Ⅰ	4		
	マーケティング・マネジメント特殊講義演習Ⅱ	4		２年次開講
	マーケティング・コミュニケーション特殊講義	2	下村　直樹	
	マーケティング・コミュニケーション特殊講義演習Ⅰ	4		
	マーケティング・コミュニケーション特殊講義演習Ⅱ	4		２年次開講
	ファイナンス論特殊講義	2	赤石　篤紀	
	ファイナンス論特殊講義演習Ⅰ	4		
	ファイナンス論特殊講義演習Ⅱ	4		２年次開講
	非営利事業論特殊講義	2	菅原　浩信	
	非営利事業論特殊講義演習Ⅰ	4		
	非営利事業論特殊講義演習Ⅱ	4		２年次開講

（次頁につづく）

（前頁より）

授業科目		単位数	担当者	備考
組織情報関連科目	会計学特殊講義	2	庄司　樹古	
	会計学特殊講義演習Ⅰ	4		
	会計学特殊講義演習Ⅱ	4		2年次開講
	財務会計論特殊講義	2	高木　裕之	
	原価計算特殊講義	2	今村　　聡	
	原価計算特殊講義演習Ⅰ	4		
	原価計算特殊講義演習Ⅱ	4		2年次開講
	経営情報論特殊講義	2	天笠　道裕	
	経営情報論特殊講義演習Ⅰ	4		
	経営情報論特殊講義演習Ⅱ	4		2年次開講
	情報システム論特殊講義	2	関　　哲人	
	情報システム論特殊講義演習Ⅰ	4		
	情報システム論特殊講義演習Ⅱ	4		2年次開講
	情報コミュニケーション論特殊講義	2	福永　　厚	
	情報コミュニケーション論特殊講義演習Ⅰ	4		
	情報コミュニケーション論特殊講義演習Ⅱ	4		2年次開講
	情報処理論特殊講義	2	上田　雅幸	
	情報処理論特殊講義演習Ⅰ	4		
	情報処理論特殊講義演習Ⅱ	4		2年次開講
組織心理関連科目	組織心理学特殊講義	2	増地あゆみ	
	組織心理学特殊講義演習Ⅰ	4		
	組織心理学特殊講義演習Ⅱ	4		2年次開講
	社会心理学特殊講義	2	中川　裕美	
	行動意思決定論特殊講義	2	鈴木　修司	
	行動意思決定論特殊講義演習Ⅰ	4		
	行動意思決定論特殊講義演習Ⅱ	4		2年次開講
	学習心理学特殊講義	2	佐藤　　淳	（令和7・8年度　開講せず）
	学習心理学特殊講義演習Ⅰ	4		（令和7・8年度　開講せず）
	学習心理学特殊講義演習Ⅱ	4		（令和7・8年度　開講せず）2年次開講
	発達心理学特殊講義	2	進藤　将敏	
	発達心理学特殊講義演習Ⅰ	4		
	発達心理学特殊講義演習Ⅱ	4		2年次開講
	認知心理学特殊講義	2	浅村　亮彦	
	認知心理学特殊講義演習Ⅰ	4		
	認知心理学特殊講義演習Ⅱ	4		2年次開講
	心的障害マネジメント特殊講義	2	田村　卓哉	
	臨床心理学特殊講義	2	田中　勝則	
	臨床心理学特殊講義演習Ⅰ	4		
	臨床心理学特殊講義演習Ⅱ	4		2年次開講
論文指導科目	論文指導Ⅰ	2	各担当教員	2年次開講※
	論文指導Ⅱ	2		2年次開講※

※論文指導Ⅰ・Ⅱの開講学期については各担当教員に確認してください。

アカデミック・リサーチ　2単位

複 数 の 教 員

【テーマ】
社会科学におけるアカデミックな研究方法の修得

【授業の到達目標】
多様な研究方法を知ることをつうじて，自らの問題意識に基づいた研究を進める際に，適切な研究方法を選択し，それを実践することができるようになることを目標とします。

【授業概要】
研究生活を送る上で必要な研究の方法，論文の書き方等について具体的に学びます。特に，実証的なアプローチをとる学生にとって，より具体的な研究方法に関する基本的な知識の修得を目指します。多様な研究方法を，各分野の専門家である教員によってオムニバスで解説していきます。

【授業計画】
1．イントロダクション―「アカデミック・リサーチ」の目的
2．研究インテグリティ（引用・参考の方法）
3．文献検索の方法
4．論文の読み方
5．論文の書き方
6．リサーチ・デザイン
7．ケース・スタディの方法
8．実験による研究方法
9．歴史的研究の方法
10．学説研究の方法
11．理論的研究の方法
12．量的研究の方法Ⅰ―統計的な方法の基礎
13．量的研究の方法Ⅱ―質問票調査によるサーベイ①（心理学）
14．量的研究の方法Ⅲ―質問票調査によるサーベイ②（経営学）
15．量的研究の方法Ⅳ―公刊資料に基づくサーベイ

【準備学習の内容】
LMS 上で担当教員からあらかじめ示される文献等がある場合，事前に指定された課題を持参して講義に参加してください。

【課題に対するフィードバック】
報告・発表の際に適宜コメントします。

【テキスト】
全体を通じたテキストは指定しませんが，必要な文献があれば，各講義担当者から紹介されます。

【参考文献】
各講義担当者から，必要に応じて紹介されます。

【成績評価】
出席状況や議論への積極的な参加程度などを総合的に判断して評価します。

【その他】
特にありません。

経営管理論特殊講義　　2単位

佐　藤　大　輔

【テーマ】
組織における創造性のマネジメント

【授業の到達目標】
受講者自身が実践者として組織における創造性のマネジメントに挑戦できるようになることが目標です。より具体的に，個人レベルでどのような理解のメカニズムがあるのか，その理解を促すために組織レベルでどのような取り組みが可能なのかを自ら考えだすことができるようになることを目指します。

【授業概要】
●なぜ，人は「自律的」に行為しないのでしょうか。
●どうすれば，新しい「アイディア」を生み出せるのでしょうか。
●なぜ，相手は「分かって」くれないのでしょうか。

これらのような問いは，ビジネスの場であれプライベートな場であれ，私たちが日常的に直面しているものです。この講義では，私たちが日常生活の中で現実的に直面するこれらの問いに対する答え（仮説）を探りながら議論を展開していきます。

経営学は，いわば人の行為に関する学問だということができます。働かない人を働くようにさせる，買ってくれない人に買ってもらえるようにする，という経営上の問いは，結局，人々の行為（働く・買う）をどう変えることができるかという問題として捉えることができます。この講義では，この行為を変えるためのアプローチとして，「管理」と「マネジメント」という２つの方法を紹介します。他者（上司やマネジャー）が当事者の行為に直接影響を与えることで短期的に成果を得ようとする「管理」に対して，「マネジメント」は当事者の行為の背景に潜む認識までも考慮することで，長期的・本質的に行為を変えていこうとする取り組みです。いうまでもなく，どちらのアプローチも欠かすことのできない重要なものですが，「管理」だけでは最初に挙げたような問題を解決することができません。例えば，「管理」によって部下を説得的に働かせることができたとしても，働かされる当事者は自分でその仕事をやりたいとまでは考えていないために，自律的に働くことはないかも知れません。その結果，彼は他人事の視点で働くことになり，もしかしたら無責任な行動をとってしまうかも知れないのです。これでは結局，その人を十分に管理できているとはいえないでしょう。そこで，この講義では「マネジメント」という方法のメリットに注目し，「管理」だけでは扱いきれないこのような問題をどう解決できるのかを考えていきます。

【授業計画】
1．経営学と組織理論
2．行為の理論としての経営学
3．合理性と創造性の経営―管理とマネジメント
4．合理性を追求する管理Ⅰ―モチベーションと期待理論
5．合理性を追求する管理Ⅱ―グループダイナミクスとリーダーシップ
6．合理性を追求する管理Ⅲ―組織構造とライン・アンド・スタッフ組織
7．合理性を追求する管理Ⅳ―管理的なマーケティング
8．管理からマネジメントへⅠ―コンティンジェンシー理論
9．管理からマネジメントへⅡ―戦略的選択論
10．創造性のマネジメントⅠ―組織学習
11．創造性のマネジメントⅡ―組織的知識創造
12．創造性のマネジメントⅢ―組織認識論
13．創造性のマネジメントⅣ―理解の構造
14．創造性のマネジメントⅤ―反省的実践
15．創造性のマネジメントⅥ―「研究」の方法

【準備学習の内容】
指定された参考資料やリーディングスがある場合には，それらを熟読した上で講義に参加してください。

【課題に対するフィードバック】
報告・発表の際に適宜コメントする。

【成績評価】
議論への積極的な参加程度などを総合的に判断して評価します。

【テキスト】
テキストは指定しませんが，必要な文献は適宜講義中に紹介します。

【参考文献】
加護野（1988）『組織認識論』千倉書房
Mintzberg, H., Ahlstrand, B., and Lampel, J. (1998), *Strategy Safari; A Guided Tour through the Wilds of Strategic Management*, Free Press.（齋藤嘉則監訳『戦略サファリ』東洋経済新報社, 1999）
Nonaka, I. and Takeuchi, H. (1995), *The Knowledge-*

Creating Company: How Japanese Companies Create the Dynamics of Innovation, Oxford University Press.（梅本訳『知識創造企業』東洋経済，1996）
Weick, K. E. (1995), *Sensemaking in Organizations*, Sage Publications.（遠田・西本訳『センスメーキング・イン・オーガニゼーションズ』文眞堂, 2001）

【その他】
特になし。

経営管理論特殊講義演習Ⅰ　4単位
経営管理論特殊講義演習Ⅱ　4単位
論文指導Ⅰ/論文指導Ⅱ　2単位/2単位

佐　藤　大　輔

【テーマ】
組織における創造性のマネジメント

【授業の到達目標】
受講者自身が実践者として組織における創造性のマネジメントに挑戦できるようになることが目標です。より具体的に，個人レベルでどのような理解のメカニズムがあるのか，その理解を促すために組織レベルでどのような取り組みが可能なのかを自ら考えだすことができるようになることを目指します。

【授業概要】
私たちはふつう何らかの組織に所属し，その中で様々なアイディアや行為を生み出しています。逆説的に，どこにも所属せずにたったひとりで生きるということは，現実的にはありえません。それゆえ，組織について考える組織理論や経営学は，いわば私たちの生活や人生そのものを考える学問ともいうことができます。一般に，経営学といえば企業やビジネスの場で利益を最大化するための方法を探求する学問として捉えられることが少なくありませんが，このような考え方にもとづいて展開されてきた合理性を追求する経営学は，既に数多くの批判にさらされており，その限界を露呈しています。ビジネスかプライベートかを分けることは経営学にとってもはや重要ではなく，むしろ私たちの日常生活や人生において組織や行為をどのように扱っていけばいいのかを考える事こそが重要になってきているのです。それゆえ，ここで扱われる経営学は企業にかかわらず，学校や家庭，その他の組織一般において人々の行為や，その背景にある認識をどのように扱うことができるかを探求します。そして，このような議論の中で，厳密な意味での「理解」が重要であり，その方法として私たちは「研究」を行わなければならないという仮説を共有します。そして，このような土台の上で，各自の問題意識に基づいた実証研究や理論構築に取り組んでもらうつもりです。

【授業計画】
1．教育とマネジメント
2．自律性への注目―「やらなければならない」ことと「やりたい」こと
3．合理性と創造性
4．管理からマネジメントへ
5．行為の理論

【準備学習の内容】
指定された参考資料やリーディングスがある場合には，それらを熟読した上で講義に参加してください。

【課題に対するフィードバック】
報告・発表の際に適宜コメントする。

【成績評価】
議論への積極的な参加程度などを総合的に判断して評価します。

【テキスト】
テキストは指定しませんが，必要な文献は適宜講義中に紹介します。

【参考文献】

Burrrell, G. and Morgan, G. (1979), *Sociological Paradigms and Organisational Analysis*, Heinemann.（野中他訳『組織理論のパラダイム』千倉書房，1986）

Lave, J. and Wenger, E. (1991) *Situated Learning: Legitimate Peripheral Participation*, Cambridge University Press.（佐伯胖訳（1993）『状況に埋め込まれた学習』産業図書.）

Lewin, K. (1948) Resolving Social Conflict, Harper & Brothers.（末長俊郎訳（1954）『社会的葛藤の解決』創元新社）

Polanyi, M. (1966) *The Taccit Dimension*, Routledge & Kegan Paul.（佐藤敬三訳（1980）『暗黙知の次元』紀伊國屋書店.）

Reboul, O. (1980) *Qu'est-ce Qu'apprendre?* Presses Universitaires de France.（石堂常世・梅本洋訳（1984）『学ぶとは何か―学校教育の哲学』勁草書房.）

Schön, D. (1983) *The Reflective Practitioner: How Professionals Think in Action, Basic Books.*（柳沢晶一・三輪建二訳（2007）『省察的実践とは何か―プロフェッショナルの行為と思考』鳳書房.）

【その他】
特になし。

経営組織論特殊講義　2単位

中　村　暁　子

【テーマ】
組織と組織の実践に関する基本的な学術的議論をつかむ

【授業の到達目標】
この講義では，組織や組織で生じる現象に関する基本的な理論や，研究の視座を学ぶ。講義を受講する際に，自身の研究や組織での実践にどのように活かすことができるのかを常に考えながら学ぶことで，より豊かな研究活動を行うことが目標である。

【授業概要】
　組織に関する学術的な取り組みは，長きにわたり様々な角度から行われており，組織論の学術的範囲は非常に多様化している。そこでこの講義では，組織や組織研究の基礎となる諸理論や研究の視座，分析方法などを学び，組織論の学術的潮流の大枠をつかむ。

【授業計画】
以下を基本とするが，受講者の興味関心や研究テーマに合わせて適宜変更して進めていく。
第1回　ガイダンス
第2回　組織とは
第3回　組織と環境
第4回　組織と制度
第5回　組織デザイン
第6回　組織コンテクスト
第7回　組織文化
第8回　組織プロセス
第9回　組織学習
第10回　個人と組織の意思決定
第11回　組織社会化
第12回　組織コミュニケーション
第13回　コンフリクトとパワー
第14回　組織とキャリア
第15回　組織とジェンダー

【準備学習の内容】
テキストの該当箇所や論文を事前に読み，その概要をMicrosoft Wordなどを用いて自分の理解をまとめる。

【課題に対するフィードバック】
報告・発表の際に適宜コメントする。

【テキスト】
以下を基本とするが，受講生の興味関心，研究テーマに合わせて変更する。
高橋正泰・髙木俊雄ら（2019）『マクロ組織論』学文社。
高橋正泰・竹内倫和ら（2019）『ミクロ組織論』学文社。

【参考文献】
自分の研究で重要な論文を持参してください。
受講者の興味関心に準じて紹介する。

【成績評価】
講義に参加するための準備の状況，報告内容やディスカッションでの発言内容により判断する。

【その他】
特になし。

経営組織特殊講義演習Ⅰ　4単位
経営組織特殊講義演習Ⅱ　4単位

中　村　暁　子

【テーマ】
組織や組織の実践の中で生じる現象の追究

【授業の到達目標】
論文の執筆と完成

【授業概要】
　組織や組織の実践の中で生じる現象を追究することを目的とする。人間は組織と関わらずにはいられない。当演習では,そのような身近な組織という存在や,組織で生じる現象を多角的に捉えるための視座や研究方法を学び，各々が関心を持つテーマについて深く追究する。最終的には，追究した内容を，論文としてまとめ上げる。

【授業計画】
【経営組織特殊講義演習Ⅰ】
第1回　問いの立て方・文献の探し方
第2回　論文の構造
第3回　論理実証主義
第4回　批判的合理主義
第5回　社会構成主義
第6回　構造主義とポスト構造主義
第7回　機能主義
第8回　解釈主義
第9回　クリティカル・マネジメント
第10回　リサーチ・デザイン
第11回　量的研究
第12回　質的研究
第13回　データ収集の方法
第14回　質的データの分析方法
第15回　ミックス・メソッド

【経営組織特殊講義演習Ⅱ】
・先行研究の把握
・問いの精緻化
・リサーチ・デザイン
・データの収集と分析
・論文の執筆

【準備学習の内容】
・テキストの該当箇所や研究に必要な論文を事前に読み，その概要を Microsoft Word などを用いて自分の理解をまとめる。
・ディスカッションの準備として，自分の理解と研究へ応用できそうな点，理解できなかった部分を明らかにしておくこと。

【課題に対するフィードバック】
報告・発表の際に適宜コメントする。

【テキスト】
高橋正泰・大月博司ら（2020）『組織のメソドロジー』学文社。

【参考文献】
自分の研究上，重要な論文を持参してください。
受講者の興味関心に準じて紹介します。

【成績評価】
報告や論文などのアウトプットの質により判断する。

【その他】
特になし。

経営戦略論特殊講義　2単位

今　野　喜　文

【テーマ】
経営戦略論の基本を学ぶ

【授業の到達目標】
経営戦略論における理論の基本を修得すること

【授業概要】
本講義では，経営戦略論の基本的な考え方を修得するとともに，具体的なケースを検討する中で現代企業が直面するさまざまな問題に焦点をあて，その解決策について考えることにしたい。

【授業計画】
第1回　オリエンテーションと担当教員によるテキストの概要説明
第2回　担当教員による講義：経営学発展の系譜（経営学の誕生から1930年代）
第3回　担当教員による講義：経営学発展の系譜（1930年代から経営戦略論の誕生）
第4回　戦略とは何か
第5回　外部環境の変化と不確実性
第6回　競争優位を確立するための内部資源と変化要因の活用
第7回　事業戦略の立案
第8回　事業戦略：コンテクストと特殊課題
第9回　全社戦略のダイナミクス
第10回　全社レベルの戦略オプション
第11回　グローバル戦略の立案
第12回　戦略の実行とコントロール
第13回　ケース討論1（アジア企業のケース）
第14回　ケース討論2（日本企業のケース）
第15回　ケース討論3（欧米企業のケース）

【準備学習の内容】
日頃から経済・経営関係の新聞や雑誌に目を通すこと

【課題に対するフィードバック】
報告・発表の際に適宜コメントする。

【テキスト】
特になし。

【参考文献】
講義で適宜紹介する。

【成績評価】
プレゼン内容と発言をもとに評価。

経営戦略論特殊講義演習Ⅰ　4単位
経営戦略論特殊講義演習Ⅱ　4単位
論文指導Ⅰ/論文指導Ⅱ　2単位/2単位

今　野　喜　文

【テーマ】
経営戦略の策定と実行に関わる研究

【授業の到達目標】
経営戦略をテーマとした修士論文を完成させること。

【授業概要】
経営戦略論の策定と実行に関わる先行研究をさまざまな角度から検討するとともに，このプロセスを通じて修士論文のテーマ設定と作成を進める。

【授業計画】
1．経営戦略に関わる基本的な論文・文献の研究
2．修士論文のテーマ設定
3．修士論文の作成と報告

【準備学習の内容】
日頃から経済・経営関係の文献を読むこと。

【課題に対するフィードバック】
報告・発表の際に適宜コメントする。

【成績評価】
授業中の発言などにより評価する。

【テキスト】
特になし。

【参考文献】
講義で適宜紹介する。

人的資源管理論特殊講義　2単位

大　石　雅　也

【テーマ】
日本的雇用慣行の史的研究

【授業の到達目標】
文献研究を通して，戦後からの日本的雇用慣行研究の流れを把握し，日本企業の雇用慣行・雇用システム・雇用制度等の特殊性について理解を深めることによって，日本企業における人的資源管理について考察できるようになること。

【授業概要】
本講義は，テキストの輪読により，日本的雇用慣行の史的研究を行なうものである。受講者全員が指定されたテキストを熟読してくることが大前提であり，毎回，受講者全員に，授業で取り扱うテキスト部分の報告原稿（レジュメ等）を作成してきてもらう。そのうえで，授業当日にランダムに指名された報告担当者が，作成してきた報告原稿をもとに，指定箇所についての報告（概要・意見・質問）を行なうものとする。

【授業計画】
第1回　ガイダンス
第2回　日本的雇用慣行に関する通説
第3回　身分制
第4回　採用
第5回　終身雇用①
第6回　終身雇用②
第7回　年功制
第8回　資格制度
第9回　昇進
第10回　賃金（戦前）
第11回　賃金（戦後）
第12回　労働組合
第13回　現在の日本的雇用慣行
第14回　これからの日本的雇用慣行
第15回　まとめ

【準備学習の内容】
毎回，受講者全員が，授業で取り扱うテキストの報告原稿(レジュメ等)を作成してくること。また，担当者の報告の後に行なう質疑応答の際に活発な議論ができるよう，十分な準備をしたうえで授業に参加すること。

【課題に対するフィードバック】
報告の際に適宜コメントする。

【テキスト】
野村正實『日本的雇用慣行―全体像構築の試み―』ミネルヴァ書房，2007年。

【参考文献】
適宜指示する。

【成績評価】
報告原稿（レジュメ等）の評価，議論への参加の程度，レポートの評価などにより，総合的に判断する。

【その他】
毎回，全員に報告原稿（レジュメ等）を作成してくることが求められ，作成された報告原稿は授業の際に提出してもらうので，しっかりと準備してくること。また，授業開始時まで，誰が当日の報告者になるか分からないので，全員が報告できる状態で授業に臨むこと。

人的資源管理論特殊講義演習Ⅰ　4単位
人的資源管理論特殊講義演習Ⅱ　4単位
論文指導Ⅰ/論文指導Ⅱ　2単位/2単位

大　石　雅　也

【テーマ】
日本的雇用慣行の史的研究

【授業の到達目標】
特殊講義演習Ⅰ：修士論文のテーマの決定
特殊講義演習Ⅱ：修士論文の完成

【授業概要】
特殊講義演習Ⅰ：人的資源管理論にかかわる先行研究を詳細に行なってもらう。
特殊講義演習Ⅱ：修士論文を作成していくための指導を行なう。

【授業計画】
1．人的資源管理論にかかわる論文・文献の検討
2．各受講生の研究テーマの決定
3．研究テーマに即した修士論文の作成

【準備学習の内容】
人的資源管理論特殊講義を受講していること。

【課題に対するフィードバック】
報告の際に適宜コメントする。

【テキスト】
特になし。

【参考文献】
特になし。

【成績評価】
課題への取り組み状況，議論への参加の程度，論文の評価などにより，総合的に判断する。

【その他】
特になし。

国際経営論特殊講義　2単位

菅　原　秀　幸

【テーマ】

(1) 国際ビジネスをめぐる理論研究と事例分析
(2) グローバル・リーダー研究
(3) アカデミック・コーチング研究

【授業の到達目標】

1．国際経営論の主たる研究領域（戦略，マネジメント，組織，マーケティング，財務）を体系的に理解する。
2．国際経営論の最新の研究領域(BOP/SDGs ビジネス，企業と社会）について基本的理解を得る。
3．国際経営論の多岐にわたる研究課題の中から，自分の関心にそった課題を絞り込んで，それについて深く学ぶ。

【授業概要】

国際経営論の主要領域に関する基礎概念と基本的理論について学び，それらを現実の国際ビジネスにどのように役立てることができるのかについて検討します。「知識は力なり」ではなく，「知識は実践に活かされて初めて力となる」のです。知識をもっているだけでは力となりませんので，知識をどのように実践に活かすことが出来るのかを考えることに重点を置いて進めていきます。また「愚者は経験に学び，賢者は歴史に学ぶ」といわれますように，各個人の経験だけから判断するのではなく，理論と歴史的考察に基づいた意思決定が出来るようにトレーニングしていきます。

本講義では，標準的な国際経営論の体系に沿って，主要 10 テーマを順次取り上げ，体系的に理解していきます。演習形式をとり，受講者によるプレゼンテーション，ディスカッション，ケース・スタディによって進めていきます。それに加えて，ブレイン・ストーミング，ビジネス・プランニングを通して，問題発見・分析・解決能力の向上をはかります。

【授業計画】

第 1 回　International Business in Globalizing World
第 2 回　International Trade and Investment Environment
第 3 回　Global Monetary System
第 4 回　Strategy of International Business
第 5 回　Strategy of International Marketing
第 6 回　Organization of International Business
第 7 回　Entry Strategy and Strategic Alliances
第 8 回　Global Manufacturing and Materials Management
第 9 回　Global Marketing and R&D
第10回　Global Human Resource Management
第11回　Corporate Social Responsibility and International Business
第12回　International Business in developed world
第13回　International Business in developing world
第14回　BOP/SDGs Business and CSR
第15回　Japanese Business in Globalizing world

【準備学習の内容】

授業でとりあげるテーマに関して，事前に指示した研究論文を読んでから出席すること。

【課題に対するフィードバック】

報告・発表の際に適宜コメントする。

【テキスト】

テキストは，開講時に指示します。

【参考文献】

参考文献は講義用サイトにアップロードしておきますので，事前にダウンロードして読んできてください。

【成績評価】

講義への貢献度（プレゼン，ディスカッション）：50%
リサーチペーパーⅠ：25%
リサーチペーパーⅡ：25%

【その他】

その他講義に関する情報は，すべて講義用サイトに掲示します。
http://www.SugawaraOnline.com/IB/

国際経営論特殊講義演習Ⅰ　4単位
国際経営論特殊講義演習Ⅱ　4単位
論文指導Ⅰ/論文指導Ⅱ　2単位/2単位

菅　原　秀　幸

【テーマ】
グローバル・エコノミーにおける国際ビジネスの諸課題の研究

グローバリゼーションの進展によって，国際ビジネスのあり方が大きく変化しており，新しい課題が次々と出てきています。本演習では，これらの課題の中から，受講生の関心にそって幾つかを選び出し，修士論文の完成を最終目標として，受講生と教員の共同作業で研究を進めていきます。

研究手法として，大きくは3つのアプローチ ── 理論的，実証的，歴史的 ── が考えられます。それぞれの研究課題にとって最も適切と考えられるアプローチにより研究を進め，正攻法の論文の書き方を指導していきます。使用するテキストや，演習の進め方については，開講時に受講生の皆さんの意見を基にして，最も実り多い成果が得られるように工夫して決めます。

【授業の到達目標】
修士論文の完成

【準備学習の内容】
事前に指示した研究論文を読んでから出席。

【課題に対するフィードバック】
報告・発表の際に適宜コメントする。

経営史特殊講義　2単位

近　藤　弘　毅

【テーマ】
組織能力の構築条件とプロセスに関する比較研究

【授業の到達目標】
企業の長期的存続と成長の基盤である組織能力に注目した諸研究を取り上げて，組織能力に関する多様な見方について理解する。

【授業概要】
チャンドラーは近代的な巨大企業の永続的な成長を支える仕組みとして組織能力という概念を提示した。しかし,巨大企業に柔軟性の欠如など欠点が指摘され,また現実に巨大企業だけが経済社会の重要な担い手ではないとの現実認識が進むにつれて，その概念については様々な方面からの研究が追加されてきている。近年では産業集積における中小企業同士のネットワーク，あるいは大企業と中小企業など組織間関係において知識や能力を融通し合うオープンイノベーションの拡大や，一部のビジネスプロセスをサービス化して提供するビジネスサービスの普及によって，企業の存続と成長に必要な組織能力は新しいものになりつつあるようである。こうした時代背景を鑑みつつ，チャンドラーの古典『スケール・アンド・スコープ』をベースに各国における各時代の企業の発展と衰退について学ぶ。

【授業計画】
第1回　講義全体の見通し
第2回　基本的概念の説明
第3回　アメリカにおける近代企業の成立条件
第4回　組織能力の創出 ── 垂直統合・寡占競争
第5回　組織能力の拡大 ── 対外投資・多角化
第6回　イギリスにおける個人的経営への執着
第7回　組織能力の創造 ── 成功と失敗の事例
第8回　ドイツにおける協調的経営
第9回　組織能力の創造 ── 小産業と大産業
第10回　その他の国々における組織能力
第11回　多様な業界における組織能力
第12回　組織能力の多様な視点① ── 資源･知識･ルーティン
第13回　組織能力の多様な視点② ── 進化能力・動態的能力
第14回　組織能力の今後の展開
第15回　まとめ

【準備学習の内容】
事前に指定した文献の該当箇所を読んで参加すること。また内容に関する報告を課す場合もある。

【課題に対するフィードバック】
報告や提出物の都度，必要に応じて指摘する。

【テキスト】
・Chandler, A. D., Jr., 1990, *Scale and Scope: The Dynamics of Industrial Capitalism*. Belknap Press of Harvard University Press, Cambridge and London.（安部悦生・川辺信雄・工藤章・西牟田祐二・日高千景・山口一臣訳，『スケールアンドスコープ ── 経営力発展の国際比較』，有斐閣，1993 年）

【参考文献】
・Amatori, F. and C. Andrea, 2011, *Business History: complexities and comparisons*. London and New York: Routledge.（西村成弘・伊藤建市訳，『ビジネス・ヒストリー ── グローバル企業誕生への道程』，ミネルヴァ書房，2014 年）
・Chesbrough, H. W., 2011, *Open Services Innovation: Rethinking Your Business to Grow and Compete in a New Era*. San Francisco, CA: Jossey-Bass.（博報堂大学ヒューマンセンタード・オープンイノベーションラボ監訳，『オープン・サービス・イノベーション ── 生活者視点から，成長と競争力のあるビジネスを創造する』，CCC メディアハウス，2012 年）
・粕谷誠，2012，『ものづくり日本経営史 ── 江戸から現代まで ──』，名古屋大学出版会.
・Langlois, R. N., 2007, *The Dynamic of Industrial Capitalism: Schumpeter, Chandler, and the New Economy, Newyork*, London and New York: Routledge.（谷口和弘訳，『消えゆく手 ── 株式会社と資本主義のダイナミクス』，慶應義塾大学出版会，2011 年）

【成績評価】
課題への取り組みや討論への参加状況で評価する。またレポートなどを課す場合もある。

【その他】
特になし

経営史特殊講義演習Ⅰ　4 単位
経営史特殊講義演習Ⅱ　4 単位
論文指導Ⅰ/論文指導Ⅱ　2 単位/ 2 単位

近　藤　弘　毅

【テーマ】
企業家活動に関する理論および事例研究

【授業の到達目標】
修士論文の作成を目標とする。

【授業概要】
企業家活動に関する様々な見解が展開されるにつれて，その研究対象も広範になってきている。この講義では，まずそれらの理論的背景について説明する。そして，参加者（講師自身も含めて）の興味関心に合わせて，様々な状況における企業家活動についての事例を取り上げ，また調査方法について議論する。

【授業計画】
下記の内容を状況に応じて取捨選択しつつ論文・書籍を用いた輪読を行う。
①企業家活動の諸理論
②新規創業と企業家活動
③企業の戦略転換と企業家活動
④産業集積・地場産地・地域と企業家活動に関する諸研究
⑤事例と調査方法

【準備学習の内容】
テキスト及び参考文献を読み，レジュメを作成すること。

【課題に対するフィードバック】
課題の報告や提出の際に適宜フィードバックをする。

【テキスト】
適宜指示する。

【参考文献】
・宮本又郎・加護野忠男・企業家研究フォーラム編著，2014，『企業家学のすすめ』，有斐閣.
・加護野忠男・山田幸三，2016，『日本のビジネスシステム ── その原理と革新』，有斐閣.
・大東英祐・武田晴人・和田一夫・粕谷誠，2007，『ビジネスシステムの進化 ── 創造･発展･企業者活動』，有斐閣.
・宇田川勝・四宮正親，2014，『企業家活動から見た日

本のものづくり経営史』，文眞堂.
・Aldrich, H. E. and M. Ruef, 2006, *Organizations Evolving, 2nd Ed*, Thousand Oaks, CA,: Sage.
・Burgelman, R. 2001, *Strategy Is Destiny: How Strategy — Making Shapes a Company's Future*. New York: Free Press.（石橋善一郎・宇田理訳，『インテルの戦略 ── 企業変貌を実現した戦略形成プロセス』ダイヤモンド社，2006）

【成績評価】
課題への取り組みや討論への参加状況で評価する。

【その他】
特になし

企業行動論特殊講義　2単位

金　倫廷

【テーマ】
戦略的企業行動への組織論的アプローチ

【授業の到達目標】
さまざまなパースペクティブから企業行動を理解する。

【授業概要】
本講義では，戦略的な企業行動を実行可能にする組織と経営のあり方について理論的考察していく。授業は指定教材の輪読を基本とし，大学院レベルの組織論と戦略論の基礎的なコンセプトや理論モデルを学習する。また，履修者の理解度によっては最新の論文を教材として使用する予定である。

【授業計画】
第1回　理論，現象，概念，抽象化
第2回　組織論の歴史①：モダン
第3回　組織論の歴史②：シンボリック
第4回　組織論の歴史③：ポストモダン
第5回　組織と環境の関係
第6回　組織の社会構造
第7回　組織とテクノロジー
第8回　組織論における組織文化研究
第9回　組織の物的構造
第10回　組織のパワー，コントロール，コンフリクト
第11回　クリティカル・スタディーズ
第12回　フェミニスト・パースペクティブ
第13回　組織変革と変革マネジメント
第14回　実践論とプロセス論
第15回　組織学習，組織アイデンティティ

【準備学習の内容】
履修者は毎回指定された教材を事前に予習してくること，各回の報告者は論文の内容要約・意見・質問等を取りまとめ，論文紹介と質疑応答にも対応できるように用意することが求められる。

【課題に対するフィードバック】
報告・発表の際に適宜コメントする。

【テキスト】
大月博司・山口義昭・日野健太『Hatch 組織論』同文館

出版，2017 年

【参考文献】
随時提示する。

【成績評価】
授業での報告，課題，発言，参加度など総合的に評価する。

【その他】
特にない。

企業行動論特殊講義演習Ⅰ　4 単位
企業行動論特殊講義演習Ⅱ　4 単位
論文指導Ⅰ/論文指導Ⅱ　2 単位/ 2 単位

金　　倫　廷

【テーマ】
企業行動の組織論的研究

【授業の到達目標】
修士論文の作成＆完成

【授業概要】
　本演習では，企業行動についての修士論文の作成を目指し，問題設定・仮説設定・実証分析を行う。自分の研究テーマについて事前学習し，論文指導後には事後学習を通じて論文を修正する。

【授業計画】
＊授業計画は，下記を基本とし，入学生の研究テーマや分析方法などの研究計画をベースに内容を検討する。
　・論文の書き方と方法
　・文献レビュー，研究テーマと関連する論文の輪読
第１回　オリエンテーション
第２回　論文作成の基本
第３回　リサーチ・デザイン
第４回　問題意識とリサーチ・クエスチョン
第５回　修士論文のテーマ選定と指導
第６回　メソドロジー
第７回　量的研究のアプローチ
第８回　質的研究のアプローチ
第９回　混合研究法
第10回　研究アプローチの選定と指導
第11回　データ収集
第12回　データ分析
第13回　データ解析
第14回　論文構成，論理構造，メソッドの最終確認
第15回　最終報告

【準備学習の内容】
研究テーマに関連する文献を自ら事前に調べて，読んでくること。

【課題に対するフィードバック】
修士論文の進捗報告･その他の発表時にコメントする。

【テキスト】
適宜紹介する。

【参考文献】
随時提示する。

【成績評価】
報告と出席で評価する。
最終年次は修正論文で評価する。

【その他】
特にない。

現代企業論特殊講義　2単位

石　嶋　芳　臣

【テーマ】
企業諸理論の系譜と発展

【授業の到達目標】
①伝統的理論から現代企業諸理論に至る学説的経緯を理解する。
②新制度派アプローチから経営諸問題の分析が出来る。
③コーポレート・ガバナンス論への洞察を深める。

【授業概要】
企業を取り巻く環境は常に変化している。今日，情報通信やバイオといった技術分野の高度化，社会や経済活動におけるグローバル化・ボーダレス化の進展に加え，少子高齢社会や環境汚染の深刻化など，従来の企業経営そのものの変革が求められ，こうした諸課題をいかに解決していくかが，現代企業の存続に関わる重要な経営課題となっている。

本講では，古典的企業理論から新制度派経済学の分析枠組みを概説し，管理と支配，およびコーポレート・ガバナンス，企業の社会的責任，企業倫理などの考察を通じて，企業の今日的な存在意義を検討する。

【授業計画】
第1回　ガイダンス
第2回　伝統的企業理論①（市場・競争・企業）
第3回　伝統的企業理論②（企業家活動）
第4回　伝統的企業理論③（経営者企業）
第5回　制度派経済学の組織と社会
第6回　経営社会学と組織社会学
第7回　新制度派経済学①（取引コスト）
第8回　新制度派経済学②（エージェンシー・コスト）
第9回　新制度派経済学③（財産権アプローチ）
第10回　新制度派経済学と不条理な現象
第11回　コーポレート・ガバナンス
第12回　日本におけるコーポレート・ガバナンスの特質
第13回　コーポレート・ガバナンスとCSR
第14回　企業倫理と経営哲学
第15回　まとめ

【準備学習の内容】
①配付資料や指定文献を読み込んで，概要を理解しつつ問題点を摘出する。
②関連するニュース資料や紀要・レポートに目を通しておく。

【課題に対するフィードバック】
報告・発表の際に適宜コメントする。

【テキスト】
講義初回に提示する。

【参考文献】
必要に応じて，その都度，適宜，指摘・紹介する。

【成績評価】
講義への参加度（発言，発表等）による平常点で評価する。

現代企業論特殊講義演習Ⅰ　4単位
現代企業論特殊講義演習Ⅱ　4単位
論文指導Ⅰ/論文指導Ⅱ　2単位/2単位

石　嶋　芳　臣

【テーマ】
現代企業の制度進化・パラダイムに関する学際的研究

【授業の到達目標】
①現代企業諸理論に関する洞察を深める。
②現代企業経営における諸問題を理解するとともに新たな問題を発見できる。

【授業概要】
株式会社制度は，社会的コンテクストに埋め込まれた歴史・文化・慣習など経路依存性を有するが故に多様であり，株式会社企業もまた社会の変化と共に漸次的に不断のコーディネーションが行われ制度進化を果たしてきた。
本講では，多くの企業が直面する持続的競争優位性の確保と社会的期待に対するレスポンスという課題から現代企業の制度的枠組みを明らかにし，社会諸科学における企業理解の展開とパラダイムを考察することで，現代企業に関わる経営上の諸問題について理論的および実証的に追究する。

【授業計画】
1．演習テーマに即した論文・文献の検討
2．受講者諸氏の研究テーマに即した文献研究の検討
3．修士論文作成のためのテクニカルな指導・サポート

【準備学習の内容】
①受講者諸氏の研究テーマに即した先行研究の分析。
②受講者諸氏の研究テーマに関連した学問領域の研究。
③配付資料や指定文献の検討。

【課題に対するフィードバック】
報告・発表の際に適宜コメントする。

【テキスト】
特になし。

【参考文献】
必要に応じて，その都度，適宜，指摘・紹介する。

【成績評価】
講義への参加度（発言，発表等）による平常点で評価する。

【その他】
基本的には受講者諸氏の修士論文作成に向けた指導となる。いかなる研究テーマを設定するかは個人の生きる意欲と結びついており，本講のテーマに必ずしも拘束されるものではない。以上の点を踏まえ，優れた修士論文作成の一助となるよう，特殊講義とも連動させた議論・討論を行う。

企業と社会特殊講義　2単位

春　日　　賢

【テーマ】
「企業と社会」をめぐる方法論と理論的研究

【授業の到達目標】
「企業と社会」をめぐる基本的な知識と視点を身に着け，自らの修士論文作成に活かせるようにすること。

【授業概要】
本講義では，「企業と社会」論（Business&Society）から，企業経営の目的と理念を方法論的・理論的に探究する。とくにP.ドラッカーのマネジメント理論を中心に，考察を進めていく。
「マネジメントを発明した男」ドラッカーの所説は膨大かつ多岐にわたっており，その全貌を理解することは決して容易ではない。そこで春日賢『もう一人のドラッカー―「新しい社会」への物語―』を手引きに，エッセンスとして下記「はじめて読むドラッカー」三部作を順次検討していくこととする。授業の進め方としてはテキストの輪読・発表・討論というオーソドックスなスタイルながら，ここでは文意の正確な把握のみに終始する解釈学を意図しない。受講者諸氏が自らの知識・キャリアに照らして，ドラッカー所説への共感・違和感を絶えず提起し，理解を深めながら，マネジメントに対する独自の考え方を組み立て構築していく創造的作業に重点をおく。すなわちドラッカー所説をベースにしながらも，あわよくばそれを受講者諸氏のオリジナルなマネジメント理論として，新たに組み替える，作り直す，作り変える，といったことをめざすのである。いわば「それぞれのドラッカー」を創りあげることを目標とするのである。一見冒険的なこの再構成作業こそ，万華鏡のごときドラッカー・マネジメント理論の深みと広がりを味わう醍醐味であるとともに，さらにはかかる知的実践のプロセスにこそ，ドラッカー・マネジメント理論の真髄，「マネジメントなるもの」への大きなヒントがあると思われるからである。以上から総じて，本講義では受講者諸氏の研究成果の向上に資するものとする。

【授業計画】
第1回　イントロダクション―授業の進め方その他の話し合い
第2回　「企業と社会」の概観―経営学と「企業と社会」
第3回　「企業と社会」の基礎―視点と課題

第４回　学史的考察①―マネジメント誕生の目的と意義
第５回　学史的考察②―マネジメントの展開と社会
第６回　社会論の推移―産業社会と知識社会
第７回　マネジメントと社会―競争と共生をめぐって
第８回　企業の社会的な義務・責任・対応性・貢献・倫理
第９回　知識労働者とマネジメント
第10回　人と仕事のマネジメント
第11回　マネジメントの目的と理念
第12回　知識社会と新しい経営理念
第13回　社会とイノベーション
第14回　マネジメントの責任
第15回　まとめ

【準備学習の内容】
発表担当のいかんにかかわらず，輪読する部分についての質問および自分なりのコメントをしっかり用意しておくこと。その他疑問に思った点については，授業前にできるだけ自分で調べてからのぞむこと。

【課題に対するフィードバック】
報告・発表の際に適宜コメントする。

【テキスト】
春日賢『もう一人のドラッカー―「新しい社会」への物語』青灯社，2024 年。『ドラッカー研究―思索の展開と焦点―』文眞堂，2022 年。
P.ドラッカー「はじめて読むドラッカー」シリーズ（いずれもダイヤモンド社，2000 年。）；
『（自己実現編）プロフェッショナルの条件』（2000 年）
『（マネジメント編）チェンジ・リーダーの条件』（2000 年）
『（社会編）イノベーターの条件』（2000 年）
『（技術編）テクノロジストの条件』（2005 年）

【参考文献】
適宜，指示する。

【成績評価】
出席を前提とし，発表・発言および課題への取り組み状況により評価する。

【その他】
特になし

企業と社会特殊講義演習Ⅰ　４単位
企業と社会特殊講義演習Ⅱ　４単位
論文指導Ⅰ/論文指導Ⅱ　２単位/２単位

春　日　　賢

【テーマ】
「企業と社会」に関する諸問題の研究

【授業の到達目標】
修士論文の作成。

【授業概要】
本演習では「企業と社会」に関する諸問題をとりあげながら，企業経営の目的と理念を方法論的・理論的に探求してゆく。文献の読み方をはじめとして，修士論文作成への指導が行われる。
近年，アメリカの学部および Business School で「企業と社会」論（Business & Society）や Business Ethics が活況を呈している。企業経営は主として自らの効率性・競争性をめざして展開されてきたが，その影響力の拡大深化にともない，同時に社会性・人間性も実現されねばならなくなったからである。とりわけ IT 革命，グローバル化，規制緩和ら近年のめまぐるしい環境変化のなかで，リストラなる言葉に象徴される雇用不安および先行きへの不透明感は「企業経営はだれのためにあるのか？」そしてそもそも「企業経営とは何をめざすのか？」といった根本的疑問を突きつけている。今まさに企業経営は，自らの存在理由そのものを問いただされる大きな節目を迎えているといってよい。
以上の視点から，本演習では「企業と社会」論に関する基礎的考察を進めながら，社会性に照らした企業経営の新しいあり方と求められるべき経営理念を研究していくための足がかりとする。授業は基本的にテキストの輪読・発表・討論で展開されるが，適宜受講者との話し合いにより進めていく。
主たる内容は以下の通りである。
Ⅰ．「企業と社会」論の問題領域
Ⅱ．企業の社会的な義務・責任・対応性・貢献・倫理
Ⅲ．「企業と社会」論の展開と企業市民論
Ⅳ．経営の目的と理念
Ⅴ．知識社会と新しい経営理念

【準備学習の内容】
発表担当のいかんにかかわらず，輪読する部分についての質問および自分なりのコメントをしっかり用意しておくこと。その他授業前に疑問に思った点については，できるだけ自分で調べて授業にのぞむこと。

【課題に対するフィードバック】
報告・発表の際に適宜コメントする。

【テキスト】
開講時に指示する。（代表的な文献・論文数点を予定しているが，受講者の関心領域によっては変更もありうる。）

マーケティング･マネジメント特殊講義　2単位

伊　藤　友　章

【テーマ】
マーケティング戦略の基礎から応用

【授業の到達目標】
・市場を理解し，それに対応するための戦略を構築していくための基本的な知識と考え方を身につける。
・ビジネス現場でそれら知識と考え方を応用し，的確な問題発見と問題解決ができるような力を身につける。
・マーケティングで学んだことを，ビジネス以外の様々な場面で応用出来る力を身につける。
・自らの修士論文の質を高めるために，本講義での学習事項を最大限に生かせるようにする。

【授業概要】
前半6回は学部レベルで学ぶマーケティング戦略の基礎知識の習得を目指し，7回以降は，理論，実務両面で様々な応用領域を学んでいきます。全体を通じて受講者の希望やレベル，人数に応じて柔軟に組み直していく予定です。

【授業計画】
第1回　オリエンテーション
第2回　マーケティングの基礎概念　～市場志向と顧客価値～
第3回　標的市場選択の論理（セグメンテーションとターゲティング）
第4回　ポジショニング選択
第5回　マーケティング・ミックス（製品・価格戦略）
第6回　マーケティング・ミックス（チャネル・プロモーション戦略）
第7回　マーケティング戦略の応用　～非営利組織のマーケティング（その1）の論理～
第8回　マーケティング戦略の応用　～非営利組織のマーケティング（その2）具体事例～
第9回　マーケティング戦略の応用　～サービスマーケティング～
第10回　マーケティング戦略の応用　～サービスマーケティング（事例）～
第11回　マーケティング戦略の発展的理論　～競争戦略論（ポジショニング・アプローチ）からの応用～
第12回　マーケティング戦略の発展的理論　～競争戦略論（資源ベース・アプローチ）からの応用～
第13回　消費者行動の基礎知識　～購買意思決定論を中心に～
第14回　消費者行動論のマーケティング戦略への応用　～ブランド・マネジメントを中心に～
第15回　まとめと振り返り学習

【準備学習の内容】
・講義で取り上げる箇所について事前に関連図書を読んだり，具体的事例を見つけ出したりしておくこと。
・授業後は，授業内容について振り返るための講義ノートを作成しておくことが望ましい。

【課題に対するフィードバック】
報告・発表の際に適宜コメントする。

【テキスト】
受講者と相談の上決定。

【参考文献】
適宜適切な文献を紹介していきます。

【成績評価】
出席（20点），日頃の小課題の提出および報告（60点），授業中の発言（20点）

【その他】
少人数の講義ですから，受身的に講義を聴くだけの授業ではなく，積極的な発言をしていただけるような機会を多く作っていきます。また短い課題（予習向け，復習向け）などを出して，その報告をお願いすることもあります。

マーケティング･マネジメント特殊講義演習Ⅰ　4単位
マーケティング･マネジメント特殊講義演習Ⅱ　4単位
論文指導Ⅰ/論文指導Ⅱ　2単位/2単位

伊　藤　友　章

【テーマ】

マーケティング戦略の研究

受講者各自の研究テーマに応じて，修士論文作成のためのサポートをすることを目的とする。テーマ設定の仕方，テーマに沿った文献収集の仕方，文献の読み方，論文の組み立て方などが具体的な指導内容になります。

【授業の到達目標】

・自ら研究テーマを見つけ出し，それに取り組み，そのテーマに関わる問題を解決し，一連の成果を論文作成という形でまとめるという主体的な学びのプロセスをしっかり遂行すること。
・修士の学位の名に恥じない質の高い論文に仕上げること。
・論文作成までのプロセスで学んだことを，修士課程修了後の自分の進路で生かせるようにすること。

【授業計画】

一年次生の計画としては以下の通りです。受講者が想定している修士論文テーマの内容や研究方法によって内容は変わっていきます。

1．オリエンテーション
2．研究テーマ（修士論文テーマ）の設定の仕方
3．研究テーマの大まかな決定
4．文献の探し方
5．研究テーマに関連した書籍あるいは論文の概要報告と指導(1)
6．研究テーマに関連した書籍あるいは論文の概要報告と指導(2)
7．研究テーマに関連した書籍あるいは論文の概要報告と指導(3)
8．研究テーマに関連した書籍あるいは論文の概要報告と指導(4)
9．研究テーマに関連した書籍あるいは論文の概要報告と指導(5)
10. 研究テーマに関連した書籍あるいは論文の概要報告と指導(6)
11. 文献リストの作成（修士論文完成まで続ける）について
12. 研究方法についての指導
13. 研究方法の仮決定
14. 選択した研究方法に即した研究方法論の文献熟読およびその概要の報告(1)
15. 選択した研究方法に即した研究方法論の文献熟読およびその概要の報告(2)
16. 選択した研究方法に即した研究方法論の文献熟読およびその概要の報告(3)
17. 研究テーマに関連した書籍あるいは論文の概要報告と指導(1)

※ 18-22 については，前期でやったものとは異なる文献を用いる。

18. 研究テーマに関連した書籍あるいは論文の概要報告と指導(2)
19. 研究テーマに関連した書籍あるいは論文の概要報告と指導(3)
20. 研究テーマに関連した書籍あるいは論文の概要報告と指導(4)
21. 研究テーマに関連した書籍あるいは論文の概要報告と指導(5)
22. 研究テーマに関連した書籍あるいは論文の概要報告と指導(6)
23. 修士論文作成のためのデータの収集について(1)
24. 修士論文作成のためのデータの収集について(2)
25. 修士論文作成のためのデータの実際
26. 修士論文の仮の骨子（章立て）の作成について
27. 修士論文の章（仮）の作成(1)
28. 修士論文の章（仮）の作成(2)
29. 二年次に向けての研究計画(1)
30. 二年次に向けての研究計画(2)

二年次においては概ね以下の通りで進める予定です。

・一学期までに論文第一章分を仕上げる。主にテーマに関する主要な先行研究の整理が中心になる。
・中間報告の準備とその事前事後の指導
・論文の本論の完成（夏休みから 10 月まで）
・論文の仕上げ（10 月から翌年 1 月まで）
・第二回中間報告の準備とその事前事後の指導
・論文提出

【準備学習の内容】

・一年時の準備期間は，関連書籍や論文を丹念に読みこなした上で，出席する。
・二年次は，上記に加えて，指定された内容に基づき，毎回論文作成を進め，文章の途中経過を必ず持参する(印刷は不要。ノート PC やタブレットをご持参ください)。論文作成にあたって，直面している問題点や疑問点を毎回丁寧にまとめておく。

【課題に対するフィードバック】

報告・発表の際に適宜コメントする。

【成績評価】

主に以下の三点が評価項目になる。

・修士論文の中身
・中間および最終報告
・演習への出席

【テキスト】

なし

【参考文献】

修士論文のテーマに沿って随時紹介していきます。論文作成には大量の書籍および論文の熟読が必要になります。

マーケティング・コミュニケーション特殊講義　2単位

下　村　直　樹

【テーマ】
コンシューマー・インサイトと広告

【授業の到達目標】
教科書の内容を把握し，英語論文を読むために英文に対する慣れをつくる。

【授業概要】
現在，広告を取り巻く環境は企業にとって複雑な時代になっています。広告メディアとしてインターネットが主力となりつつある社会で，従来からある伝統的な広告は力を失ってきています。また，インターネットであっても，企業がメッセージをコントロールできる自社サイトではなく，Facebook や LINE，Twitter，Instagram などに代表されるソーシャルメディアが力を発揮しています。企業の広告よりも，消費者の生の声が信用される時代です。このような状況で，企業は広告をどのように考えていけばよいのでしょうか。そこでは，「共感」を生み出す広告が１つの方向として検討されており，それを考える手がかりとしてコンシューマー・インサイトという視点があります。コンシューマー・インサイト自体は 1990 年代半ばから出てきた考え方であり，新しいものではないですが，これからの広告を考える上で重要な視点になっています。本講義では，コンシューマー・インサイトの古典といわれる本（広告そのものというよりは，質的調査に関する本）を読み，現在の状況に当てはめながら，広告について一緒に考えていきます。

【授業計画】
1．オリエンテーション（講義の進め方について）
2．スイート・スポット
3．広告のブレイクスルー
4．説得の科学
5．自分自身の読み方
6．基礎の構築
7．データからインスピレーションへ
8．良い消費者探偵のあり方
9．エスノグラフィー
10．質問の仕方
11．知覚のマッピング
12．人々を分ける
13．インサイトを知る方法
14．仮説のテスト
15．コラボレーションの予測と着想，講義のまとめ

【準備学習の内容】
講義はゼミ形式で行います。1 冊の英語の本を用いて，１回の割り当てごとに，割り当ての担当者はレジュメ・パワーポイントを作り，それに基づいて発表します。残りの人（＋割り当ての担当者）は，毎回の割り当て箇所ごとに事前課題が出されますので，それに取り組んできて，講義中に発表します。事前課題はあらかじめレジュメにまとめておき，講義終了後に提出します。

【課題に対するフィードバック】
報告・発表の際に適宜コメントする。

【テキスト】
Lisa Fortini-Campbell，*Hitting The Sweet Spot*，The Copy Workshop．
英語の本（翻訳は出版されていません）を読みますが，英語で書かれている欧米の教科書とは違い，本の厚さは薄くて文字が大きく，日本人にとって平易な英文で書かれていますので，英語が苦手な人でも（多少の辞書を引きますが，多分）読めると思います。

【参考文献】
1．ジョン・スティール『アカウント・プランニングが広告を変える』ダイヤモンド社　2000 年　2400 円＋税
2．桶谷功『戦略インサイト』ダイヤモンド社　2018 年　1600 円＋税
広告に関する知識のない人は，
3．岸志津江・田中洋・嶋村和恵『現代広告論　第 3 版』有斐閣　2017 年　2400 円＋税
を事前に読んで，知識を補ってください。

【成績評価】
出席（３分の２以上は必須。欠席（および，遅刻）する場合は，必ず講義開始前までに連絡してください。（無断欠席は即単位の取得不可となります。)），課題への取り組み，講義への参加度合い，最終レポート

マーケティング･コミュニケーション特殊講義演習Ⅰ　4単位
マーケティング・コミュニケーション特殊講義演習Ⅱ　4単位
論文指導Ⅰ/論文指導Ⅱ　2単位/2単位

下　村　直　樹

【テーマ】
マーケティングをコミュニケーションの視点から捉える。

【授業の到達目標】
演習Ⅰ：修士論文を作成するための知識を習得する。
演習Ⅱ：修士論文を完成させる。

【授業概要】
上記テーマにあるように，マーケティングをコミュニケーションの視点から研究します。具体的には，広告やセールス・プロモーション，パブリック・リレーションズ，統合型マーケティング・コミュニケーションなどを手がかりとして進めていきます。Ⅰではまずは修士論文を書く上での研究の進め方を学び，次いで自分の興味・関心ある文献の発表を行って，テーマを確定します。Ⅱでは随時修士論文の進捗状況を発表します。

【授業計画】
以下にあるテキストを読んで PowerPoint やレジュメにまとめて報告してもらったり，自分が興味・関心ある論文や文献をこれも PowerPoint やレジュメにまとめて報告してもらったりしながら，徐々に修士論文の研究テーマを決定していきます。テーマが決定したら，そのテーマを進めるための方法論を平行して勉強しながら，進捗状況を逐次発表します。

【準備学習の内容】
演習Ⅰ：割り当て部分に対する報告を準備する。
演習Ⅱ：修士論文の進捗状況報告を準備する。

【課題に対するフィードバック】
報告・発表の際に適宜コメントする。

【成績評価】
出席，発表・発言，レポート（特に無断欠席の場合は翌週からの演習に出席することはできません）

【テキスト】
田村正紀,『リサーチ・デザイン』, 白桃書房　2006 年.
藤本隆宏・他,『リサーチ・マインド　経営学研究法』, 有斐閣　2005 年.
今田高俊(編),『社会学研究法　リアリティの捉え方』, 有斐閣　2000 年.
小池和男･洞口治夫,『経営学のフィールド･リサーチ』, 有斐閣　2006 年.
岸志津江・田中洋・嶋村和恵,『現代広告論　第 3 版』, 有斐閣　2017 年.

【参考文献】
その都度，紹介します。

【その他】
特になし。

ファイナンス論特殊講義　2単位

赤　石　篤　紀

【テーマ】
コーポレート・ファイナンスにおける理論の理解

【授業の到達目標】
1．資本市場における理論モデルを理解する
2．企業における様々な財務的意思決定（資本調達決定や投資決定など）に関する諸理論における考え方を理解する
3．2．を踏まえて，企業の財務戦略を読み解けるようになる

【授業概要】
コーポレート・ファイナンスに関する文献（外書含む）の購読を通じて，その基本的な考え方を学ぶと同時に，専門知識の習得を狙いとする。

【授業計画】
指定のテキストを，受講生が分担して，報告する形で講義を進める。そして，その報告箇所を中心に議論を行い，理解を深めこととする。
第1回　企業と投資家
第2回　資本コストと価値評価
第3回　資本コストと企業経営
第4回　資本コストと企業経営の実践1―大阪ガス
第5回　資本コストと企業経営の実践2―松下電器
第6回　M&A 戦略の理論と事例
第7回　負債の利用と企業価値評価
第8回　最適な負債比率の探究
第9回　負債に対する企業の見方―伊勢丹，キリン
第10回　エクイティ・ファイナンスと資本調達
第11回　配当政策に対する考え方
第12回　自社株買い
第13回　様々な配当政策―資生堂，マブチモーター
第14回　企業の現金保有と株式持ち合い
第15回　ガバナンス

【準備学習の内容】
前の講義で指定された箇所を読み，自分なりの理解を深め，論点を整理することが求められる（120 分程度）

【課題に対するフィードバック】
報告・発表の際に適宜コメントする。

【テキスト】
講義時に指定する。

【参考文献】
榊原茂樹・岡田克彦（2012）『1からのファイナンス』碩学舎，2,592円
砂川伸幸他（2008），『日本企業のコーポレートファイナンス』，日本経済新聞社，3,456円
砂川伸幸他（2013），『経営戦略とコーポレートファイナンス』，日本経済新聞社，3,456円

【成績評価】
各回の講義時における準備状況や講義における発言内容によって，評価する。

ファイナンス論特殊講義演習Ⅰ　4単位
ファイナンス論特殊講義演習Ⅱ　4単位
論文指導Ⅰ/論文指導Ⅱ　2単位/2単位

赤　石　篤　紀

【テーマ】
特殊講義演習Ⅰでは，コーポレート・ファイナンス（経営財務，企業財務）の理論に関する理解を深め，修士論文のテーマを模索する。特殊講義演習Ⅱでは，特殊講義演習Ⅰで設定したテーマに基づいて，修士論文を作成していく。

【授業の到達目標】
特殊講義演習Ⅰ…修士論文のテーマの決定
特殊講義演習Ⅱ…修士論文の完成

【授業概要】
特殊講義演習Ⅰでは，コーポレート・ファイナンス（経営財務，企業財務）の理論に関する理解を深めるため，同領域における専門書の購読を行う。この過程を経て修士論文のテーマを模索する。
特殊講義演習Ⅱでは，Ⅰで設定した修士論文のテーマに即して，論文を作成していくための指導を行う。

【授業計画】
特殊講義演習Ⅰ
第1回　ガイダンス
第2回　ファイナンスに関する文献の購読①　～ファイナンスの基本的な考え方～
第3回　ファイナンスに関する文献の購読②　～債券価格に関する理論～
第4回　ファイナンスに関する文献の購読③　～ポートフォリオ理論～
第5回　ファイナンスに関する文献の購読④　～資本資産評価モデル（CAPM）～
第6回　ファイナンスに関する文献の購読⑤　～裁定評価理論（APT）～
第7回　経営財務に関する文献の購読①　～経営財務の対象～
第8回　経営財務に関する文献の購読②　～投資決定～
第9回　経営財務に関する文献の購読③　～資本構成～
第10回　経営財務に関する文献の購読④　～配当政策～
第11回　経営財務に関する文献の購読⑤　～企業評価～
第12回　研究テーマの設定①　～修士論文テーマに関する議論～
第13回　研究テーマの設定②　～修士論文テーマの検

討～
第14回　研究テーマの設定③　～修士論文テーマの再設定～
第15回　研究テーマの設定④　～修士論文テーマの確定～
第16回　関連する先行研究のサーベイ①　～先行研究の検索～
第17回　関連する先行研究のサーベイ②　～先行研究の収集～
第18回　関連する先行研究のサーベイ③　～先行研究の分類・整理～
第19回　関連する先行研究のサーベイ④　～先行研究の分析・批判的検討～
第20回　関連する先行研究のサーベイ⑤　～先行研究の再検討，先行研究の差別化～
第21回　研究仮説の構築①　～修士論文テーマの再検討～
第22回　研究仮説の構築②　～研究仮説の設計～
第23回　研究仮説の構築③　～研究仮説の検討～
第24回　研究仮説の構築④　～研究仮説の確定～
第25回　研究方法の検討①　～研究方法に関する議論～
第26回　研究方法の検討②　～研究方法の設定～
第27回　研究方法の検討③　～研究方法の検討～
第28回　研究方法の検討④　～研究方法の再設定～
第29回　研究方法の検討⑤　～研究方法の確定～
第30回　総評

特殊講義演習Ⅱ
第１回　ガイダンス
第２回　研究計画の作成①　～修士論文のテーマと論文構成の確認～
第３回　研究計画の作成②　～論文構成の検討～
第４回　研究計画の作成③　～方法論の確認～
第５回　研究に関する進捗状況の報告①　～先行研究の整理・分類～
第６回　研究に関する進捗状況の報告②　～先行研究の批判的検討～
第７回　研究に関する進捗状況の報告③　～新たな先行研究の探索～
第８回　研究に関する進捗状況の報告④　～追加した先行研究の検討～
第９回　研究に関する進捗状況の報告⑤　～仮説の検証～
第10回　研究に関する進捗状況の報告⑥　～検証結果の解釈～
第11回　研究に関する進捗状況の報告⑦　～仮説の再設定～
第12回　研究に関する進捗状況の報告⑧　～再設定した仮説の検証～
第13回　研究に関する進捗状況の報告⑨　～新たな検証の結果の解釈～
第14回　第１回中間報告会に向けた準備
第15回　第１回中間報告会
第16回　第１回中間報告会を踏まえた論文の再検討～コメントの検討～
第17回　研究に関する進捗状況の報告⑪　～改善に向けた検討～
第18回　研究に関する進捗状況の報告⑫　～論文構成の再考～
第19回　研究に関する進捗状況の報告⑬　～修正個所の報告～
第20回　研究に関する進捗状況の報告⑭　～修正個所の検討～
第21回　研究に関する進捗状況の報告⑮　～加筆個所の報告～
第22回　研究に関する進捗状況の報告⑯　～加筆個所の検討～
第23回　第２回中間報告会に向けた準備①　～報告内容の検討～
第24回　第２回中間報告会に向けた準備②　～報告内容の確定～
第25回　第２回中間報告会
第26回　第２回中間報告会を踏まえた論文の再検討①～コメントの検討～
第27回　第２回中間報告会を踏まえた論文の再検討②～加筆修正～
第28回　修士論文最終稿の報告
第29回　修士論文提出に向けた準備①　～内容の再検討～
第30回　修士論文提出に向けた準備②　～体裁の再確認～

【準備学習の内容】
演習Ⅰ…各回のテーマに即して，１時間の演習に耐えうる内容の発表物（レジュメなど）を用意することを求める（300 分～）
演習Ⅱ…１年間を通して論文作成を進めていくとともに，毎回の演習では，新たに作成した論文の箇所や修正個所，進捗状況を報告するための準備を求める（300 分～）

【課題に対するフィードバック】
報告・発表の際に適宜コメントする。

【成績評価】
各回の講義時の報告内容によって評価する。

【テキスト】
講義時に指定する。

【参考文献】
必要に応じて，適宜紹介する。

非営利事業論特殊講義　　2単位

菅　原　浩　信

【テーマ】
民間非営利組織のマネジメントに関する実践的研究

【授業の到達目標】
民間非営利組織（NPO法人やボランティア組織）とはどのようなものか，また，そのマネジメントはどのように展開されているのかについて理解できる。

【授業概要】
本講では，民間非営利組織（NPO法人やボランティア組織）のマネジメントについて具体的に検討する。前半は民間非営利組織に関するテキストの輪読，後半は主としてNPO法人のマネジメントに関する事例研究を行う。

【授業計画】
おおむね以下の通りとするが，履修者の人数や，履修者の問題意識・関心等によっては，内容や進捗状況を大幅に変更する場合があるので，留意されたい。
第1回：ガイダンス
第2回：テキスト輪読(1)（なぜNPOを選ぶのか，NPOとは何か①）
第3回：テキスト輪読(2)（NPOとは何か②，NPOはなぜ求められるのか）
第4回：テキスト輪読(3)（NPOの4つの機能，法・制度を学ぼう）
第5回：テキスト輪読(4)（行政との関わりを考えよう，ソーシャル・キャピタルとは）
第6回：テキスト輪読(5)（企業との関係を知ろう，大災害におけるNPOの役割）
第7回：テキスト輪読(6)（社会的起業家・社会的企業とは）
第8回：テキスト輪読(7)（マネジメントを理解しよう）
第9回：テキスト輪読(8)（どのように資金調達するのか）
第10回：事例研究(1)（担当教員が指定する非営利組織（例：飛んでけ！車いすの会，北海道NPOバンク，霧多布湿原ナショナルトラスト等）の中から1組織選択）
第11回：事例研究(2)（第10回に同じ）
第12回：事例研究(3)（第10回に同じ）
第13回：事例研究(4)（履修者が自らの興味・関心に基づき任意の非営利組織を1組織選択
第14回：事例研究(5)（第13回に同じ）
第15回：事例研究(6)（第13回に同じ）

【準備学習の内容】
本講は，履修者の報告・討論により進められる。そのため，毎回の報告者は事前にレジュメを作成の上，参加者全員に送付しておく。また，報告者以外の参加者は送付されたレジュメを熟読し，意見・質問等を考えておく。

【課題に対するフィードバック】
報告・発表の際に適宜コメントする。

【テキスト】
澤村明・田中敬文・黒田かをり・西出優子『はじめてのNPO論』，有斐閣，2017年

【参考文献】
必要に応じて適宜紹介する。

【成績評価】
報告内容および出席状況（主として議論への参加度）により評価する。

【その他】
特になし。

非営利事業論特殊講義演習Ⅰ　4単位
非営利事業論特殊講義演習Ⅱ　4単位
論文指導Ⅰ/論文指導Ⅱ　2単位/2単位

菅　原　浩　信

【テーマ】
民間非営利組織や公企業のマネジメントに関する実践的研究

【授業の到達目標】
修士論文を完成させる。

【授業概要】
本演習では，履修者の民間非営利組織や公企業に関する問題意識・関心等に基づき，修士論文の作成に向けた指導を行う。

【授業計画】
概要は以下の通りであるが，履修者の問題意識・関心等によっては，内容や進捗状況を一部変更する場合があるので，留意されたい。

1．民間非営利組織や公企業のマネジメントに関する論文等の研究
2．研究テーマの設定
3．研究テーマに関連する先行研究のサーベイ
4．研究仮説の構築
5．研究方法の検討
6．研究計画の作成
7．研究に関する進捗状況の報告（中間報告会に向けた準備を含む）
8．修士論文提出に向けた準備

【準備学習の内容】
本講は，履修者の報告・討論により進められる。そのため，毎回の報告者は事前にレジュメを作成の上，参加者全員に送付しておく。

【課題に対するフィードバック】
報告・発表の際に適宜コメントする。

【テキスト】
履修者の問題意識・関心等をふまえて決定する。

【参考文献】
必要に応じて適宜紹介する。

【成績評価】
報告内容，議論内容および研究成果により評価する。

【その他】
特になし。

会計学特殊講義　2単位

庄　司　樹　古

【テーマ】
会計概念フレームワークの基礎概念と各ステートメントの研究

【授業の到達目標】
会計基準を設定するためのメタ基準である会計概念フレームワークの構造と形成プロセスを検証することで，現代会計の大きな潮流を学ぶことを到達目標とする。

【授業概要】
IFRSと会計基準設定のための理論的基礎を異にするわが国においては，IFRSの全面的採用に際して，単なる会計基準の変更のみでなく，会計全体を支える基礎概念の変更も余儀なくされてきた。

ところで，IFRSにおける会計全体を支えるさまざまな基礎概念は，IFRSにおいてはじめて生じたものではなく，その多くの萌芽は，アメリカ財務会計基準審議会（FASB）がFASB概念ステートメントに求められる。

そこで，本講義では，現代会計を理解するための基礎概念の多くを包含しているFASB概念ステートメントにおける各種トピックスを受講者各人に研究報告してもらう形式で講義を進めて行く。

【授業計画】
第1回　講義の進め方に関するガイダンス
第2回　イントロダクション
第3回　FASB概念ステートメントの構成
第4回　FASB概念ステートメントの役割
第5回　意思決定有用性会計の理論的基盤
第6回　会計情報の特性とトレードオフ関係
第7回　資産負債アプローチ
第8回　収益費用アプローチ
第9回　財務諸表の構成要素の定義と利益観
第10回　認識プロセスの構造の比較検証
第11回　獲得利益と包括的利益の概念構造
第12回　IASB概念フレームワークとの比較検証
第13回　わが国概念フレームワークとの比較検証
第14回　取得原価主義と公正価値会計の比較検証
第15回　まとめ

なお，受講者の要望によっては，授業概要および計画は柔軟に変更する。

【準備学習の内容】
準備学習として，以下の２点を要求する。
・事前に指定された文献を熟読し，ノートをまとめて事前提出すること
・講義後，事前学習と講義内容を踏まえて，事後レポートを提出すること
・会計学に関する基本的な知識を習得していることが，本講義を受講する前提となります。

【課題に対するフィードバック】
報告・発表の際に適宜コメントする。

【テキスト】
講義時に指定します。

【参考文献】
講義時に指定します。

【成績評価】
発表の内容と講義における発言によって評価します。

会計学特殊講義演習Ⅰ　４単位
会計学特殊講義演習Ⅱ　４単位
論文指導Ⅰ/論文指導Ⅱ　２単位/２単位

庄　司　樹　古

【テーマ】
会計制度および会計基準の生成と発展プロセスの研究

【授業の到達目標】
・会計学特殊講義演習Ⅰでは，学習の成果をまとめて，大学院の研究論集の執筆を行うことを到達目標とする。
・会計学特殊講義演習Ⅱでは，会計学特殊講義演習Ⅰから継続してきた研究をもとに修士論文を完成させることを到達目標とする。

【授業概要】
会計学特殊講義演習Ⅰでは，現代会計における制度および基準の中から論文テーマを選択してもらい，当該テーマの歴史的経緯から研究を始めてもらう。

ただし，そのためには，取得原価主義，実現概念を中核に据えるいわゆる動態論会計を熟知し，それとの比較の上で研究を進めることが不可欠である。したがって，会計学特殊講義演習Ⅰでは，まず，伝統的会計理論の学修に注力してもらうことになる。

会計学特殊講義演習Ⅱでは，演習Ⅰにおける研究によって形成された理論的基礎に立脚し，公正価値測定を導入する現代会計におけるさまざまなトピックスに関して，その制度的構造と理論的基礎に関して研究してもらう。

とりわけ，FASB ならびに IASB における公正価値会計に関連して制定された各種基準の渉猟と研究，さらに，IFRS における最新の会計基準の分析を中心としたい。

そして，上記研究を通じて，現代会計における各種のトピックスの中から，修士論文作成のためのテーマを設定し，研究ならびに報告を行ってもらう。

【授業計画】
基本的な授業計画の概要は，次の４つの段階から構成されている。
１．テーマの設定に関する指導
２．課題書籍の講読
３．各回におけるレポートの作成
４．各回におけるディスカッション

詳細については，受講生と相談の上で決定する。

なお，テーマの設定によっては，授業概要の内容も柔軟に変更する。

【準備学習の内容】
準備学習として，以下の２点を要求する。
・事前学習：研究内容の報告書に関するレジュメの作成と提出
・事後学習：講義後の事後レポートの作成と提出

【課題に対するフィードバック】
報告・発表の際に適宜コメントする。

【テキスト】
講義時に指定します。

【参考文献】
藤井秀樹『現代企業会計論』森山書店　1997 年　¥4,100
津守常弘『会計基準形成の論理』森山書店　2002 年　¥5,100
土方　久『貸借対照表能力論』税務経理協会　1993 年　¥2,600
斎藤静樹『会計基準の研究増補版』中央経済社　2010 年　¥3,800
広瀬義州『会計基準論』中央経済社　1995 年　¥4,300
松尾聿正『会計理論の基礎構造』同文舘　1982 年　¥2,900

【成績評価】
発表の内容と講義における発言，大学院研究論集の執筆と修士論文の完成によって評価します。

財務会計論特殊講義　2 単位

高　木　裕　之

【テーマ】
企業会計制度に関する理論，法及び実務の相関に関する研究

【授業の到達目標】
・会計実務の処理について，国際比較ができる。
・企業会計制度の展望を洞察することができる。

【授業概要】
本講義では，我が国企業会計制度の将来を見定めるべく，その源流をドイツ商法会計に求めて，戦前から今日に至るドイツの「法的意味における会計」の歴史的変遷について条文を通して検討し，会計理論及び会計実務が法典化にどのように影響を及ぼしたのかを研究する。その際，とりわけ 1965 年株式法の改正後の商法規定の変革と EC 指令の国内法化によって改正された 85 年商法典を検討することによって，ドイツ企業会計制度の現代的基盤をその中に見いだすとともに，「資本調達容易化法」をめぐってドイツ多国籍企業が国際資本市場に向けて企業会計制度との関わり合いを強く示した姿を資料などで確認し，その後の国際化に向けた一連の変革を制度面で検討する。

【授業計画】
1．財務会計論研究の方法と課題
2．会計目的の制度上の意義と歴史的展開
3．会計目的の構造化と法典化
4．ドイツ企業会計制度の橋脚概念
5．正規の簿記の諸原則について
6．基準性の原則について
7．逆基準性の原則について
8．True and fair view について
9．GoB と TFV との相剋
10．Rule-base と Principle-base について
11．会計基準と法規
12．会計基準設定機関について
13．ドイツ企業会計制度と IFRS
14．国内基準と国際基準―分離か統一か
15．展望

【準備学習の内容】
・提供する資料のテクニカルタームを事前に調べる。
・各回のテーマとなる会計実務について，実例を調べ

る。

【課題に対するフィードバック】
報告・発表の際に適宜コメントする。

【成績評価】
課題の提出と報告によって評価します。

【テキスト】
なし

【参考文献】
講義時に随時紹介します。

【その他】
特になし。

原価計算特殊講義　2単位

今村　聡

【テーマ】
現代原価計算制度の基礎理論を理解する。

【授業の到達目標】
原価計算制度の概要について，丸暗記ではなく，自分の言葉で説明できること。

【授業概要】
学部レベルのテキストを輪読するが，計算手続や公式の持つ意味を理解できることを目的として精読する。後半では，原価計算制度の範囲外のトピックについても，雑誌論文や英語文献を選んで輪読し議論したい。

【授業計画】
第1講　原価計算の目的・原価とは
第2講　原価計算の歴史
第3講　費目別計算
第4講　部門別計算
第5講　個別原価計算
第6講　総合原価計算
第7講　標準原価計算
第8講　直接原価計算
第9講　CVP分析
第10講　価格決定と原価計算
第11講　コスト・マネジメント
第12講　ABC
第13講　差額利益概念
第14講　業務執行的意思決定
第15講　戦略的意思決定

【準備学習の内容】
テキストの指定個所や，指示された論文を読んでおく。
または，テキストの章末計算問題等を，まずは自分で解いてみる。

【課題に対するフィードバック】
報告・発表の際に適宜コメントするが，あまりに酷い場合は，個別に説諭する。

【成績評価】
普段の講義での発言や，課題への取り組み方などを評価の主な対象とするが，期末に短いレポートを課すことがあり得る。

【テキスト】
櫻井通晴著『原価計算』，2014年
廣本敏郎・挽文子著『原価計算論（第3版）』，2015年
岡本清著『原価計算〔六訂版〕』，2000年
Horngren, C. T., Dater, S. M., Foster, G., *Cost Accounting: a managerial emphasis, 12th ed.*, 2006

原価計算特殊講義演習Ⅰ　4単位
原価計算特殊講義演習Ⅱ　4単位
論文指導Ⅰ/論文指導Ⅱ　2単位/2単位

今　村　　聡

【テーマ】
原価計算論の研究

【授業の到達目標】
演習Ⅰでは基礎文献を渉猟し，演習Ⅱにおいて修士論文を完成する。

【授業概要】
　演習Ⅰでは基礎文献につき，毎回レポートを作成し報告する。
　演習Ⅱでは，修士論文の下書を執筆して報告する。

【授業計画】
　特に授業計画を定めず，上記「授業概要」に応じた授業を展開する。

【準備学習の内容】
毎回の講義における報告の準備

【課題に対するフィードバック】
報告・発表の際に叱正する。

【テキスト】
講義開始時に決定するが，使用しない場合もあり得る。

【参考文献】
開講時に指定し，その後も授業の進行に応じて適宜指示する。

【成績評価】
授業期間内の報告・発表の内容に基づき評価する。

【その他】
なし

経営情報論特殊講義　2単位

天　笠　道　裕

【テーマ】
経営情報とシステム科学

【授業の到達目標】
経営情報システム構築のために有用なシステム認識理論，および，種々の経営情報システムに関して深く理解する。

【授業概要】
　経済や技術および社会環境などの外部環境の変化が激しい今日，企業はこれらの変化に積極的に対処し外部情報を収集し，分析することが肝要である。そしてその中から経営戦略上の問題を発見し，解決することにより，企業競争力や収益性を確保する必要がある。外部環境の中でも，特に情報技術の進展をいかに経営活動の中に取り込み，そこから生じる経営情報を経営戦略上の手段としていかに活用するかということが重要であり，経営情報システムの構築とその基礎となるシステム認識について講究することは意義のあることである。
　本講義は，経営情報システムの構築のために有用な，問題の本質を把握するためのシステム認識理論，およびさまざまな経営情報システムをとりあげ講究する。

【授業計画】
第1回　システムの定義
第2回　システムと環境
第3回　問題の発見とその解決法
第4回　システム認識理論
第5回　システム認識理論の応用
第6回　経営情報とシステム
第7回　Ill-defined problem
第8回　Well-defined problem
第9回　問題の構造・機能分類
第10回　問題の構造・機能分類と経営情報システム
第11回　意思決定支援システム
第12回　実際の経営情報意思決定支援システム
第13回　意思決定支援システムによるシミュレーション(1)：PLAN，DO
第14回　意思決定支援システムによるシミュレーション(2)：DO，SEE
第15回　まとめ

【準備学習の内容】
講義内容に応じて適宜配布される文献を熟読し，理解を深めておくことが望まれる。

【課題に対するフィードバック】
報告・発表の際に適宜コメントする。

【テキスト】
講義内容に関する文献を適宜配布する。

【参考文献】
講義の中で指示する。

【成績評価】
課題報告，討論内容等に基づき，総合的に評価する。

【その他】
特になし

経営情報論特殊講義演習Ⅰ　4単位
経営情報論特殊講義演習Ⅱ　4単位
論文指導Ⅰ/論文指導Ⅱ　2単位/2単位

天　笠　道　裕

【テーマ】
経営情報と意思決定

【授業の到達目標】
不確実性を伴うデータに対する新しい方法論を研究し，意思決定支援システムとして構築する。さらに，そのシステムを実際の経営問題に応用し考察する。

【授業概要】
　経営情報システムに関する文献について考究するとともに，それらの研究論文の発展した内容として，不確実性を伴うデータに対する新しい方法論を研究し，意思決定支援システムとして構築する。さらにそのシステムを実際の経営問題に応用し考察する。
　なお，論文作成のための手続きや論文の書き方に関して，論文審査のための基準等を参考にしながら研究指導を行う。さらに学会等でのプレゼンテーションの方法についても指導する。

【授業計画】
以下の主たる具体的研究テーマに関する研究を行う。
Ⅰ．Decision Support System of Prediction Method and Its Applications
Ⅱ．Decision Support System of Human Resource Management and Its Applications
Ⅲ．Establishment of Selling Price and Its Applications
Ⅳ．Performance Measurement System for Value Improvement of Services and Its Applications

【準備学習の内容】
演習テーマに応じて適宜配布される文献を熟読し，理解を深めておくことが望まれる。

【課題に対するフィードバック】
報告・発表の際に適宜コメントする。

【テキスト】
演習テーマに関する文献を適宜配布する。

【参考文献】
その都度示唆する。

【成績評価】
課題報告，討論内容，および研究成果に基づき，総合的に評価する。

【その他】
特になし

情報システム論特殊講義　2単位

関　哲人

【テーマ】
経営と情報システムの相互作用を学ぶ。

【授業の到達目標】
経営情報システム論・経営情報論分野における情報システムの捉え方を身につける。

【授業概要】
本講義では,「経営における目標を達成するために情報システムをどう構築・活用すべきか」を検討する。ここでは，経営情報システム論・経営情報論分野の論文を用いてこれらについて考えてもらいます。

【授業計画】
第1回　ガイダンス
第2回　経営情報論・経営情報システム論の概要
第3回　オフィス・オートメーション
第4回　情報システム設計論
第5回　情報品質
第6回　SNSと情報システム
第7回　ビジネスシステム
第8回　ICTとマーケティング
第9回　ICTと地域振興
第10回　ICTとものづくり
第11回　医療情報システム
第12回　リスクマネジメントと情報システム
第13回　情報倫理
第14回　情報教育と人材育成
第15回　全体の総括

【準備学習の内容】
事前に学術論文のコピーを配布するので，あらかじめ読んでおくこと。

【課題に対するフィードバック】
報告・発表の際に適宜コメントします。

【テキスト】
配布する学術論文のコピーを用います。

【参考文献】
随時紹介します。

【成績評価】
出席状況及び議論への参加の度合いによって評価します。

【その他】
受講生の興味や進度によって授業計画を変更することもあり得ます。

情報システム論特殊講義演習Ⅰ　4単位
情報システム論特殊講義演習Ⅱ　4単位
論文指導Ⅰ/論文指導Ⅱ　2単位/2単位

関　　哲人

【テーマ】

情報システムと組織及び情報システムと人間の有機的結合にかかわる実証研究を行い，学会報告・論文の形にまとめる。

【授業の到達目標】

本演習では実証研究を考えているため，統計解析，質的調査，事例分析のいずれかの形でまとめてもらいます。実務的な問題意識に立脚し，データないし事例について深い理解を求め，それを理論化してもらうことになります。

【授業概要】

情報システムと組織及び情報システムと人間はどのようにかかわることで，優れた情報システムが構築・運用できるか。その考察のためには，自らが持っている事例やデータを，実証分析を通じて深く掘り下げてもらうことになります。そこで，基礎理論と分析手法を修得した上で,学会報告という形にまとめ上げます。最終的には，自身の考察を修士論文という形でまとめてもらいます。

【授業計画】

・分析手法の修得
・先行研究の確認
・予備調査・実験
・本調査・実験
・学会報告準備・本番
・追加調査・実験
・修士論文の作成

【準備学習の内容】

・自身が持っている事例を整理すること。
・分析手法，統計解析手法については一通り理解しておくこと。

【課題に対するフィードバック】

・収集したデータの分析については，指導教員のアドバイスのもとで実施される。
・報告や論文についても，指導教員その他の研究者によるコメントがあり，そのコメントを履修者が反映させることになる。

【成績評価】

・学会報告及び修士論文の内容で判断します。

【テキスト】

履修者の関心に応じて，適当な書籍・論文を選んで，テキストとして用います。

【参考文献】

必要に応じて，適宜書籍・論文などを紹介します。

【その他】

・学会報告は最低1回行ってもらいます。学会報告に至るまで指導教員による指導を経て，学会報告では研究者からコメントをもらうことになります。これらを踏まえ,修士論文を完成させることになります。
・授業計画は，実証研究を質問紙調査を想定した例です。担当教員は他の実証研究手法にも対応するので，他手法の場合であっても本計画に倣って指導します。

情報コミュニケーション論特殊講義　2単位

福　永　　厚

【テーマ】
組織の情報コミュニケーションと数学的分析方法

【授業の到達目標】
組織の情報コミュニケーションと数学的分析方法についての知見を得ること。

【授業概要】
情報コミュニケーションの研究は，企業や行政などの組織体において，情報活動，すなわち情報の収集(input)，処理(processing)，記憶(storage)，検索(access)，提供(output)や組織構成員のコミュニケーションをより効果的に管理・運営して，組織の各管理者やトップマネジメントの意思決定に貢献することを目的としている。その為には，組織において構成員間でどのようなコミュニケーションが行われ，どのような情報が流れているかを明らかにすることが重要である。構成員に対してアンケートやインタビューを行ってデータを収集し，構成員間のコミュニケーション関係をネットワークによって表現し，それに対してネットワーク分析の手法を適用する。本講義ではネットワーク分析の数学的手法について講義する。

【授業計画】
第1回　情報コミュニケーションとは
第2回　組織コミュニケーション
第3回　コミュニケーションネットワーク
第4回　ネットワーク分析とは
第5回　離散数学
第6回　グラフ理論
第7回　ネットワークとグラフ
第8回　最短経路問題
第9回　ネットワーク構造の諸指標
第10回　中心性
第11回　ネットワーク構造の分析
第12回　ネットワークの類似性
第13回　シミュレーション
第14回　ネットワークの描画
第15回　まとめ

【準備学習の内容】
数学を使うので，線形代数，解析学，確率と統計などの数学の基礎をしっかり固めておくこと。事前にテキストを読み，質問や意見を整理しておく。

【課題に対するフィードバック】
報告・発表の際に適宜コメントする。

【成績評価】
平常点及び課題の履行状況により評価する。

【テキスト】
テキストは受講者と相談の上，決める。

情報コミュニケーション論特殊講義演習Ⅰ　4単位
情報コミュニケーション論特殊講義演習Ⅱ　4単位
論文指導Ⅰ/論文指導Ⅱ　2単位/2単位

福　永　　厚

【テーマ】
組織における情報コミュニケーションの研究

【授業の到達目標】
組織における情報コミュニケーションと数学的分析方法についての知見を得ることと研究能力の向上をはかる。

【授業概要】
情報コミュニケーションの研究は，企業や行政などの組織体において，情報活動，すなわち情報の収集(input)，処理(processing)，記憶(storage)，検索(access)，提供(output)や組織構成員のコミュニケーションをより効果的に管理・運営して，組織の各管理者やトップマネジメントの意思決定に貢献することを目的としている。その為には，組織において構成員間でどのようなコミュニケーションが行われ，どのような情報が流れているかを明らかにすることが重要である。構成員に対してアンケートやインタビューを行ってデータを収集し，構成員間のコミュニケーション関係をネットワークによって表現し，それに対してネットワーク分析の手法を適用して分析する。本演習では，組織における情報コミュニケーションのデータの収集，ネットワーク表現，数学的分析の手法を用いて研究を行い，修士論文にまとめる。

【授業計画】
Ⅰ．情報コミュニケーションについての学習
Ⅱ．数学的手法の習得
Ⅲ．情報コミュニケーションのデータ取集
Ⅳ．ネットワーク表現
Ⅴ．ネットワーク分析
Ⅵ．修士論文の作成

【準備学習の内容】
数学を使うので，線形代数，解析学，確率と統計などの数学の基礎をしっかり固めておくこと。事前にテキストを読み，質問や意見を整理しておく。

【課題に対するフィードバック】
報告・発表の際に適宜コメントする。

【成績評価】
平常点及び課題の履行状況により評価する。

【テキスト】
テキストは受講者と相談の上，決める。

情報処理論特殊講義　　2単位

上　田　雅　幸

【テーマ】
情報処理と意思決定

【授業の到達目標】
情報処理の技術的側面の理解
情報技術を活用した意思決定の能力の向上

【授業概要】
　本講義では，情報処理の技術的な側面だけでなく，情報技術を活用した意思決定（例えば，Excelのソルバー機能を活用した科学的意思決定）についても学ぶ。

【授業計画】
第1回　ガイダンス
第2回　コンピュータが記憶・演算を行える仕組み
第3回　セキュリティ(1)　盗聴対策
第4回　セキュリティ(2)　改竄・なりすまし対策
第5回　表計算ソフトの機能(1)：「関数」，「データ分析」機能
第6回　表計算ソフトの機能(2)：「ソルバー」機能
第7回　表計算ソフトによる問題解決(1)：「生産計画問題」とは
第8回　表計算ソフトによる問題解決(2)：「生産計画問題」の解法
第9回　表計算ソフトによる問題解決(3)：「輸送計画問題」・「割当て問題」とは
第10回　表計算ソフトによる問題解決(4)：「輸送計画問題」・「割当て問題」の解法
第11回　表計算ソフトによる問題解決(5)：応用問題
第12回　表計算ソフトの機能(3)：「シミュレーション」機能
第13回　表計算ソフトによる問題解決(6)：新聞売り子問題
第14回　表計算ソフトによる問題解決(7)：需要の不確実性を考慮した輸送計画問題
第15回　全体の総括

【準備学習の内容】
事前にテキストや資料を読み，理解を深めておく。

【課題に対するフィードバック】
報告・発表の際に適宜コメントする。

【テキスト】
受講者と相談の上，テキストを決める。

【参考書】
随時紹介する。

【成績評価】
出席状況と課題の履行状況などに基づき，総合的に評価する。

【その他】
特になし。

情報処理論特殊講義演習Ⅰ　4単位
情報処理論特殊講義演習Ⅱ　4単位
論文指導Ⅰ/論文指導Ⅱ　2単位/2単位

上　田　雅　幸

【テーマ】

意思決定（支援）における情報技術の活用に関する研究

【授業の到達目標】

・研究テーマの設定（特殊講義演習Ⅰ），及び，修士論文の完成（特殊講義演習Ⅱ）
・情報技術を活用した意思決定の能力の向上

【授業概要】

・興味・関心のある先行研究をさまざまな観点から分析しながら，修士論文のテーマ設定と作成を進める。
・〝文献収集〟，〝論文の読み方〟など，論文作成に必要な指導を行う。

【授業計画】

・情報技術を活用した意思決定（支援）に関わる先行研究の整理を行う。
・研究テーマを設定する。
・研究計画に従って，修士論文の完成を目指す。

【準備学習の内容】

事前にテキストや資料を読み，理解を深めておく。

【課題に対するフィードバック】

報告・発表の際に適宜コメントする。

【成績評価】

報告内容および研究成果により評価する。

【テキスト】

受講者と相談の上，テキストを決める。

【参考文献】

随時紹介する。

【その他】

特になし。

組織心理学特殊講義　2単位

増　地　あゆみ

【テーマ】

組織のリスク・マネジメントに関する心理学的考察

【授業の到達目標】

組織で起きる事故や不祥事に関わる心理学的要因の影響を理解し，組織のリスク・マネジメントのあり方を考察することを目標とする。

【授業概要】

本講義では，組織で起きる事故に関わる心理学的要因として，個人と組織の意思決定にみられるバイアス，ヒューマン・エラーや不安全行動を誘発する組織的要因などの影響を理解したうえで，より有効なリスク・マネジメントのあり方について考察する。

【授業計画】

第1回　組織とリスク①　―組織事故における心理学的要因
第2回　組織とリスク②　―産業事故事例の分析
第3回　組織とリスク③　―医療事故事例の分析
第4回　リスクに関わる意思決定①　―産業場面におけるリスク認知
第5回　リスクに関わる意思決定②　―リスク認知と安全行動
第6回　リスクに関わる意思決定③　―リスクに対する集団意思決定
第7回　組織とヒューマン・エラー①　―エラーの分類としくみ
第8回　組織とヒューマン・エラー②　―エラー発生の組織的要因
第9回　組織とヒューマン・エラー③　―組織のエラー対策事例
第10回　リスクと組織風土①　―組織風土と個人の意思決定
第11回　リスクと組織風土②　―組織風土と集団思考（浅慮）
第12回　リスクと組織風土③　―安全文化の育成
第13回　組織のリスク管理とリスク教育①　―リスク管理の枠組み
第14回　組織のリスク管理とリスク教育②　―組織的な「知」の活用
第15回　組織のリスク管理とリスク教育③　―経験に基づく安全行動の習得

【準備学習の内容】
心理学および組織心理学領域の基礎知識を確認しておくとともに，近年の組織事故の具体的事例を把握しておく。

【課題に対するフィードバック】
報告・発表の際に適宜コメントする。

【テキスト】
岡本浩一・今野裕之『リスク・マネジメントの心理学―事故・事件から学ぶ』新曜社　2003 年

【参考文献】
岡本浩一・今野裕之 〈組織の社会技術 1〉『組織健全化のための社会心理学：違反・事故・不祥事を防ぐ社会技術』 新曜社　2006 年
岡本浩一・他 〈組織の社会技術 2〉『会議の科学―健全な決裁のための社会技術』 新曜社　2006 年
岡本浩一・鎌田晶子 〈組織の社会技術 3〉『属人思考の心理学―組織風土改善の社会技術』 新曜社　2006 年
岡本浩一・他 〈組織の社会技術 4〉『内部告発のマネジメント―コンプライアンスの社会技術』新曜社　2006 年
岡本浩一・他 〈組織の社会技術 5〉『職業的使命感のマネジメント―ノブレス・オブリジェの社会技術』新曜社　2006 年

【成績評価】
講義中の発表内容およびレポートに基づいて評価する。

組織心理学特殊講義演習Ⅰ　4 単位
組織心理学特殊講義演習Ⅱ　4 単位
論文指導Ⅰ/論文指導Ⅱ　2 単位/ 2 単位

増　地　あゆみ

【テーマ】
組織における人間行動に関する心理学的研究

【授業の到達目標】
組織における個々の人間行動，あるいは組織と個人の相互作用に関する研究テーマを定め，研究テーマに関連する文献研究を経て，実験研究または調査研究により設定したテーマについて検討することを目標とする。

【授業概要】
本演習では，1 年次に，関心のある領域に関する文献を講読し，研究テーマを明確にした上で，具体的な研究計画を立てる。合わせて，実験や調査の手法，統計手法についても学び，予備的な調査または実験を行う。2 年次には，研究計画に従って研究を実施し，データの解析作業を行い，これらの成果に基づき修士論文の作成を進める。

【準備学習の内容】
実験・調査のデータ分析に必要な統計的知識を習得しておく。

【課題に対するフィードバック】
報告・発表の際に適宜コメントする。

【成績評価】
講義中の討論内容および研究成果に基づいて評価する。

【テキスト】
初回の講義時に受講生との話し合いで決める。

【参考文献】
田尾雅夫『組織行動の社会心理学』北大路書房　2001 年
森敏昭・吉田寿夫『心理学のためのデータ解析テクニカルブック』北大路書房　1990 年

社会心理学特殊講義　2単位

中　川　裕　美

【テーマ】
社会心理学の古典的研究と日常で起こる社会問題との対応関係を，批判的視点から英語で理解する。

【授業の到達目標】
1．心理学における専門英語を押さえ，英語論文が精読できるようになる。
2．現代社会における問題と社会心理学との関連を理解する。
3．社会心理学的視点から事象を批判的に考察できる。

【授業概要】
本講義では，社会心理学の古典的研究および日常で起こる社会問題を取り上げた英語のテキストを通読・精読する。基礎・応用研究を包括的に捉え，社会心理学的視点から批判的考察ができるようになることが目的である。また，心理学における専門英語を押さえることで，英語論文の通読・精読技術を高め，先行研究の収集・レビューを円滑に行えるようになることを目指す。各章では理解度を確認する復習問題や考察問題が設定されているため，受講者の能力に応じて，これらを適宜実施する。

【授業計画】
第1回　イントロダクションと英語の実力測定
第2回　Perspectives in Social Psychology（社会心理学的視点）
第3回　Social Cognition（社会的認知）
第4回　Prejudice（偏見）
第5回　Attribution（帰属）
第6回　Explanatory Talk（説明的発話）
第7回　Attitude Change and Persuasion（態度変容と説得）
第8回　Self and Identity（自己とアイデンティティ）
第9回　Group Behaviour（集団行動）
第10回　Aggression（攻撃）
第11回　Relationship（関係）
第12回　Prosocial Behaviour（向社会的行動）
第13回　Communication and Interaction（コミュニケーションと相互作用）
第14回　Culture（文化）
第15回　Social Influence（社会的影響）

【準備学習の内容】
各章の「Introduction」と「Chapter Overview」を確認し，不明な英単語を調べておく。それぞれの内容について3～4つの箇条書きでまとめておく。

【課題に対するフィードバック】
通読していく中で適宜指摘する。

【テキスト】
・Dickerson, P. (2024). Social Psychology: Traditional and Critical Perspectives (2nd ed.). SAGE Publications.

【参考文献】
・山崎有紀子（2014）．心理院単　ナツメ社
・小花和 Wright 尚子・安藤明人・佐方哲彦（2010）．心理学英和・和英基本用語集　福村出版

【成績評価】
準備学習の成果，各章で実施する復習問題・考察問題の内容に応じて評価を行う。

【その他】
英語に苦手意識がある方は，不明な英単語を調べておくなど準備学習を入念に行うことを推奨する。講義では不明な英単語を調べるための辞書または PC を持参し，各テーマで理解できない内容があれば，その都度すぐに調べられるようにしておくことが望ましい。

社会心理学特殊講義演習Ⅰ　4単位
社会心理学特殊講義演習Ⅱ　4単位
論文指導Ⅰ/論文指導Ⅱ　2単位/2単位

中　川　裕　美

【テーマ】

社会心理学分野に関連した実験・調査を実施し，実証データを基に修士論文としてまとめる。

【授業の到達目標】

1．自身の研究テーマをまとめ，修士論文を完成させる。
2．修士論文の内容を基に，あるいはそれを発展させて，学術成果を公表する。

【授業概要】

本講義では，履修者の研究テーマに基づき，社会心理学的視点を踏まえたうえで実験・調査を実施する。得られた実証データを分析・考察し，それらをまとめた修士論文を作成することが最終目標である。研究の発展につながる助言を得るために，修士論文の内容については，学術成果として公表（学会・研究会発表など）を推奨する。さらに完成した修士論文を基に（あるいは発展させ），学術論文を公刊することを目指す。

【授業計画】

初回のイントロダクションで履修者の心理学的知識，実験・調査・分析の経験，英語の能力，文章執筆の能力を確認する。そのうえで，1年前期～2年後期までの研究スケジュールを決定する。

※初学者の場合は，授業外学習の時間が多くなることに注意すること。

【1年前期】

自身の研究テーマを決めるために，日本語論文・英語論文の読み方を指導する。研究テーマを決めた後に先行研究のレビューを行う。目安として，30～50本程度の論文を内容ごとにまとめ，研究のどの部分で必要なのかを発表する。同時に研究計画を考え，リサーチクエスチョン，実験・調査方法，仮説などの具体的な事項を決定する。他の研究計画や結果を参照し，自身の研究に取り入れるために，学会参加（日本心理学会，日本社会心理学会など）を推奨する。

【1年後期】

実験・調査を実施するために，研究倫理審査申請書類を作成する（必須ではないが，学術論文への投稿を目指す場合には申請が望ましい）。研究概要，参加対象者，参加者への侵襲性の有無などの具体的な項目をまとめる必要がある。修士論文のプロットを作成し，序論，目的，方法，引用文献部分を完成させておく。

【2年前期】

実験・調査を実施する。実施後には，データ分析を行う。仮説検証から継続研究に向けた補足的分析まで詳細な分析を行う。実証データをまとめ，抄録を完成させ，学会発表（日本心理学会，日本社会心理学会など）を行う。学会で得られた助言を基に，修士論文の結果，考察，引用文献部分を完成させておく。

【2年後期】

修士論文の完成に向けて修正を行う。修士論文の完成と同時にパワーポイントやキーノートを利用した口頭試問を行う。質疑応答に対応するための資料も作成する必要がある。さらに修士論文の内容を基に学術論文への投稿を目指す場合は，投稿先の選定，追試・新規の研究の計画を考え，準備する。

【準備学習の内容】

先行研究のレビュー，実験・調査実施の計画作成，論文のプロット作成など修士論文を完成させるために決められたステップを必ず期限内に終わらせておく必要がある。授業は成果発表の時間であるため，授業時間内にこれらの準備を行う時間はないものと考えておくこと。準備が不十分の場合は，修正を求めることがあり，複数回の修正を求めても改善が見られない場合，本科目の単位修得が困難となる。

【課題に対するフィードバック】

毎週の成果発表時に口頭でフィードバックを行う。その他，進捗状況に応じてメール・ビデオ通話などで随時対応を行うこともある。学会・研究会発表の機会を通じて，様々な分野の研究者から研究内容に関する助言を受けることがある。

【テキスト】

適宜指示する。先行研究となる書籍や自身の実験・調査方法に即した書籍を購入する必要がある。論文・資料に関しても購読料がかかる場合がある。修士論文で引用する文献は全て入手することを前提とする。

【参考文献】

適宜指示するが，特に初学者は以下の書籍を入手し，あらかじめ読んでおくことを勧める。

〈テーマ決め〉

・浦上昌則・藤田知加子・解良優基（2025）．はじめよう！心理学研究：「テーマが決まらない」を乗り越える　ナカニシヤ出版

〈研究法〉

・三浦麻子（2017）．なるほど！心理学研究法　北大

路書房
〈統計分析〉
・板口典弘・森数馬（2017）．ステップアップ心理学シリーズ　心理学統計入門　わかって使える検定法　講談社
〈論文執筆〉
・松井豊（2022）．三訂版　心理学論文の書き方：卒業論文や修士論文を書くために　河出書房新社

【成績評価】
毎週の成果発表，各段階での知識・技術の修得率，修士論文の内容と口頭試問に応じて評価する。

【その他】
心理学関連の学部を卒業していない方，実験・調査・分析をしたことがない方，卒業論文の執筆経験がない方は，授業計画のスケジュールがタイトになることに注意する。具体的には社会心理学実験・調査の手法，研究倫理審査の理解，分析ツールの操作方法，論文構成などの知識・技術を授業外で修得する必要があり，授業計画の各段階でそれらが修得できているかを確認する。

行動意思決定論特殊講義　2単位

鈴　木　修　司

【テーマ】
意思決定に関する心理学的諸問題の把握と理解

【授業の到達目標】
意思決定に関する心理学的研究を包括的に理解する。

【授業概要】
意思決定はヒトがおこなっているすべての行動に関わっており，そのため数多くの分野で研究されている。本講義では，心理学の実験的手法を用いて明らかになってきた意思決定の現象とそれを説明するために提唱されてきた理論の理解を目指す。

【授業計画】
第１回　行動意思決定論概説
第２回　意思決定に関する合理性
第３回　認知機能と意思決定
第４回　規範的モデルと記述的モデルの比較検討
第５回　ヒューリスティックの妥当性と限界に関する検討
第６回　確率判断を巡る問題
第７回　記述普遍性に関する検討
第８回　手続き普遍性に関する検討
第９回　リスク状況とリスクレス状況の比較
第10回　異時間選択に関する現象と仮説の検討
第11回　意思決定における感情の影響
第12回　意思決定に正当性や理由を求めることの影響
第13回　価値，効用，満足感とは何か？
第14回　意思決定の普遍性と領域固有性
第15回　意思決定研究の方向性と今後

【準備学習の内容】
指定された文献を読み，その内容を理解する。不明点や疑問点がある場合には，自分の考えをまとめ，講義中に質問できるように準備すること。

【課題に対するフィードバック】
報告・発表の際に適宜コメントする。

【テキスト】
特に指定しない。受講生との話し合いを経て，決定する。

【参考文献】
講義内で適宜，指定する。

【成績評価】
平常点をもっておこなう。

【その他】
特になし。

行動意思決定論特殊講義演習Ⅰ　4単位
行動意思決定論特殊講義演習Ⅱ　4単位
論文指導Ⅰ/論文指導Ⅱ　2単位/2単位

鈴　木　修　司

【テーマ】
意思決定に関する心理学的問題の学術的検討

人間が実際におこなっている様々な場面での意思決定について検討する。そのため，意思決定に関する予備的知識は十分に備わっていることが前提となる。意思決定に限らず，行動には複数の要因が関与していることが多い。それらを多角的に理解し，そのメカニズムを把握する。

意思決定に関する文献購読以外にも，実験や調査に必要な知識についても習得する。すなわち，実験計画法や質問紙作製法，統計的分析法などである。先行研究の知見を批判的に検討することにより，自分の研究を行う際に必要な思考法を身につけることを期待している。併せて修士論文作成へ向けて指導を行う。

【授業の到達目標】
受講生が各自の研究を進め，修士論文を完成させる。

【準備学習の内容】
修士論文の作成には，各自の仮説を設定し，その検証を行うことが必要である。そのための情報収集，研究計画の立案，調査や実験の実施などが，すべて準備学習となる。準備は受講生が主体的に進めること。

【課題に対するフィードバック】
報告・発表の際に適宜コメントする。

発達心理学特殊講義　2単位

進　藤　将　敏

【テーマ】
人間の発達のメカニズムに関する考察

【授業の到達目標】
⑴　発達に影響を与える多要因性について理解する。
⑵　社会性の発達・適応過程について理解する。
⑶　現実社会における課題と発達心理学の関係性について理解する。

【授業概要】
人間の姿は時間の経過とともに，生物学的要因，社会文化的要因，個人的要因に影響を受けながら変化する。本講義では，そのような多要因性を考慮しながら，人間の一生涯の発達とそのメカニズムを考察することによって，人間理解の知を深めていく。特に，古典的な発達研究，近年の発達科学的研究，教育実践研究で得られたさまざまな知見やデータを概観することによって，発達の概念を理解していくとともに，社会性の発達や適応の過程について議論を進める。

【授業計画】
第１回　オリエンテーション
第２回　発達の概念
第３回　社会適応の概念
第４回　情動・行動制御のメカニズム
第５回　情動・行動制御と社会性発達
第６回　社会との関わりの中での発達
第７回　社会文化的な期待と発達
第８回　発達と次世代育成１（情動発達）
第９回　発達と次世代育成２（非認知能力）
第10回　発達と次世代育成３（教育・保育実践）
第11回　発達課題の再考１（発達の柔軟性）
第12回　発達課題の再考２（自己の発達）
第13回　発達課題の再考３（生涯にわたる社会適応）
第14回　発達課題の再考４（成熟の概念）
第15回　まとめ

【準備学習の内容】
講義内で指示された課題（文献・論文の講読）に取り組み，発表資料として準備すること。

【課題に対するフィードバック】
報告・発表の際に適宜コメントする。

【テキスト】
特に指定しない。

【参考文献】
講義中に適宜，指示する。

【成績評価】
授業への参加状況，指定課題の提出と発表，質疑応答の質などを総合的に評価する。

【その他】
特になし。

発達心理学特殊講義演習Ⅰ　4単位
発達心理学特殊講義演習Ⅱ　4単位
論文指導Ⅰ/論文指導Ⅱ　2単位/2単位

進　藤　将　敏

【テーマ】
発達心理学に関する実証研究

【授業の到達目標】
発達心理学に関する実証研究を行い，修士論文を完成させる。

【授業概要】
　発達心理学領域で関心のある研究テーマに基づき，人間の認知発達のメカニズムの解明，または社会への有用な示唆を導くための発達研究を行い，その成果を修士論文としてまとめる。

【授業計画】
⑴　１年次では，「関心のあるテーマの先行研究のレビュー」，「先行研究から問いを立てる」，「研究目的・仮説・方法の検討」，「予備実験・調査の実施」を行い，修士論文の執筆に向けた準備・計画を進める。
⑵　２年次では，１年次での準備・計画に基づき，「研究の実施」，「結果の分析」，「総合的考察」を行い，修士論文の執筆を進める。

【準備学習の内容】
⑴　研究テーマに関連する先行研究をレビューし，研究動向をまとめておくこと。
⑵　研究の方法論や統計的データ分析の手法について，主体的に学習しておくこと。

【課題に対するフィードバック】
報告・発表の際に適宜コメントする。

【テキスト】
特に指定しない。

【参考文献】
適宜，指示する。

【成績評価】
講義中の報告・発表内容および研究成果を総合的に評価する。

【その他】
特になし。

認知心理学特殊講義　2単位

浅　村　亮　彦

【テーマ】
認知過程論概説

【授業の到達目標】
人間の認知過程に関する具体的な研究課題を定め，研究仮説を設定すること。

【授業概要】
　人間の認知過程について深く理解することを目標とし，認知心理学の主な研究分野における研究成果と最新動向について概説する。具体的には，感覚・知覚，認知制御，記憶と知識，イメージの利用，空間認知，言語理解，思考，ヒューマン・エラーを取り上げ，各領域における研究とその成果について討論し，それらを通して認知心理学の方法論，モデル，研究動向に関する理解を深める。

【授業計画】
第１回　認知心理学の成立とその背景
第２回　認知心理学の研究対象と研究アプローチ
第３回　感覚・知覚の情報処理
第４回　認知の制御過程
第５回　記憶の形成過程
第６回　知識表象のモデル
第７回　イメージによる情報処理
第８回　空間の認知過程
第９回　言語理解に関する情報処理⑴：文字，単語，文の理解過程
第10回　言語理解に関する情報処理⑵：文章の理解過程
第11回　思考過程⑴：問題解決
第12回　思考過程⑵：推論
第13回　思考過程⑶：意思決定
第14回　ヒューマン・エラーに関わる認知過程
第15回　まとめ

【準備学習の内容】
人間の認知過程に関する研究動向を調べておくこと。

【課題に対するフィードバック】
報告・発表の際に適宜コメントする。

【テキスト】
指定しない。

【参考文献】
講義時に指示する。

【成績評価】
平常点およびレポート課題によって評価する。

【その他】
特になし

認知心理学特殊講義演習Ⅰ　4単位
認知心理学特殊講義演習Ⅱ　4単位
論文指導Ⅰ/論文指導Ⅱ　2単位/2単位

浅　村　亮　彦

【授業の到達目標】
人間の認知過程に関する具体的な研究課題について，研究仮説を設定・検証し，その成果を修士論文としてまとめること。

【授業概要】
本演習のテーマは,「人間の認知過程に関する学術的研究」であり，人間の認知過程に関する具体的な研究テーマを定め，実験研究を通して研究テーマについて一定の研究成果を得ることが目標である。

記憶，言語理解，思考・問題解決，イメージの利用などの様々な認知過程の中から，具体的な研究テーマを設定し，関連する先行研究の読解，研究仮説の設定，研究計画の策定・実施，データ解析を行なう。これらの活動を通して修士論文作成に向けた指導を行なう。

【授業計画】
具体的な授業計画は下記の通りである。
1年次
研究テーマの設定
先行研究の調査と読解
研究仮説の設定
予備研究の計画・準備・実施
予備研究結果の分析と問題点の整理
2年次
研究の計画・準備・実施
研究結果の分析
仮説の検証と研究の総合的考察
修士論文の執筆

【準備学習の内容】
研究テーマに関する研究動向を調べ，先行研究を収集しておくこと。

【課題に対するフィードバック】
報告・発表の際に適宜コメントする。

【成績評価】
成績は討論，提出課題の内容，および研究成果によって総合的に評価する。

【テキスト】
テキストは指定しない。

【参考文献】
参考書は必要に応じて随時指示する。

心的障害マネジメント特殊講義　2単位

田　村　卓　哉

【テーマ】
心理学的適応とその障害に関する諸問題の検討

【授業の到達目標】
・「適応」という概念の広がりを理解する。
・「不適応」の様々な様態を理解する。
・「適応」と「不適応」に対する多様な心理学的アプローチを理解する。
・適応改善を目指す様々な取り組みを理解する。
・「適応（と不適応）」という視点から様々な組織を捉えることの意義を理解する。

【授業概要】
ヒト（を含む多くの生物）は，それぞれが生まれ持った生得的な諸条件をもとに，様々な発達環境の下で獲得してきた重層的な諸能力を駆使して，個体内外の環境（の変化）に対処しようとする適応志向的な存在であると考えることができる。この適応というダイナミックな過程は，意識的であるか否かにかかわらず，生体が内外の諸資源を活かして，自らの生存条件の改善をはかるものであるから，広義の「マネジメント」と捉えることも可能である。

本講義では，このような視点から，発達障害，脳・神経系の障害，精神疾患等に起因する様々な不適応の様態を紹介するとともに，それらに対する自らの対処や周囲からの働きかけに関する諸問題を検討する。さらに，これらの検討内容とより一般的な経営学上のトピックとの関係についても考察する。

私たちは，多様な組織に所属し，様々な人間関係において，自他の「心的障害」に遭遇する。その際，私たちは何を知り得るのか，何をなし得るのか，両者はどのような関係にあるのか。それらを考えるための基本的な視座を得ることが，本講義に通底する目的である。

【授業計画】
第1回　オリエンテーション
第2回　適応とは何か
第3回　系統発生的適応と個体発生的適応
第4回　不適応
第5回　様々な心身の障害と軽度発達障害
第6回　生理学的アプローチ
第7回　心理学的アプローチ

第８回　社会科学的アプローチ
第９回　当事者研究
第10回　発達１（乳幼児期）
第11回　発達２（学童期）
第12回　発達３（青年期）
第13回　就労の問題
第14回　人間関係の調整
第15回　まとめ

【準備学習の内容】
講義内で使用する配付資料・テキストの該当箇所等について，事前に熟読し，指示された論点等について，他の参考資料等も参照しつつ，検討してくる必要がある。

【課題に対するフィードバック】
報告・発表の際に適宜コメントする。

【テキスト】
複数の候補を提示した上で，受講者と相談の上，決定する。

【参考文献】
講義中に多数紹介する。

【成績評価】
平常点（課題報告・質疑応答の内容等）により評価する。

【その他】
特になし

臨床心理学特殊講義　　２単位

田　中　勝　則

【テーマ】
心身の健康の維持・回復・促進に関する心理学的アプローチ

【授業の到達目標】
１．現代における臨床心理学の全体像について把握し，理解する。
２．臨床心理学という学問が社会においてどのように活用されているかを知り，各自の日常生活と関連づけた理解が可能となる。

【授業概要】
臨床心理学は心身の健康の維持・回復・促進を中心的に取り扱う科学的かつ実践的な学問です。その範囲は非常に多岐に渡ります。この講義の前半では，臨床心理学の全体像を掴み取ることを目指します。

一方，2015年９月に公認心理師法が施行され，我が国に初めて心理職の国家資格である公認心理師が誕生しました。これまでの制度と何がどのように異なるのか，加えて，どのような分野でこの新しい資格を持つ者が活動することが見込まれているかについて，最新の動向を確認していきます。このことを通じ，各受講者が臨床心理学の提供する支援体系を日常生活の中でユーザーとして活用することが可能になることを目指します。

なお，以上の講義を通じて様々なカウンセリング技法や心理検査について学ぶことがありますが，受講者各位がそのような技術を第三者に施行することを目的として講義内容の習得を求める講義ではありません。また，学習の結果として各自の個人的な悩みや問題の解決に資することを主目的とした講義でもありません。これらの点を踏まえた上で，受講を検討してください。

【授業計画】
第１回　ガイダンス
第２回　臨床心理学とは何か
第３回　実践科学としての臨床心理学
第４回　学習理論・行動療法
第５回　認知理論・認知療法，認知行動療法
第６回　来談者中心療法とパーソン・センタード・アプローチ
第７回　集団的アプローチとコミュニティアプローチ
第８回　診断・見立て・アセスメント
第９回　臨床心理学と研究⑴量的研究
第10回　臨床心理学と研究⑵質的研究
第11回　医療領域における臨床心理学の活用
第12回　教育領域における臨床心理学の活用
第13回　福祉領域における臨床心理学の活用

第14回　司法領域における臨床心理学の活用
第15回　産業領域における臨床心理学の活用
　なお，受講者の興味関心に基づき，上記内容については柔軟に変更する。

【準備学習の内容】
担当教員が行う話題提供に対して，受講者との間で議論を深めます。参考文献や web から得られる情報をベースに予習を行っておくと，理解が促進されます。不明な用語については心理学や精神医学の事典，辞書を参照して各自で理解を深めてください。疑問や質問には個別に応じます。

【課題に対するフィードバック】
発表・報告の際に適宜コメントします。

【テキスト】
特に指定しません。

【参考文献】
必要に応じて講義の中で適宜紹介します。

【成績評価】
講義における発表内容や議論等を総括的に評価します。

【その他】
特になし。

臨床心理学特殊講義演習Ⅰ　4単位
臨床心理学特殊講義演習Ⅱ　4単位
論文指導Ⅰ/論文指導Ⅱ　2単位/2単位

田　中　勝　則

【テーマ】
心身の健康の維持・回復・促進に関する心理学的問題の学術的検討

【授業の到達目標】
1．先行研究のレビューに基づき，論文作成に必要となる研究課題を設定する。
2．研究を遂行するために必要な研究技法（調査，実験，行動観察等）や得られたデータの解析技法を習得する。
3．1および2を踏まえ，自らの課題意識に基づき修士論文を完成させる。

【授業概要】
　この演習では，修士論文の作成に向けた指導を行います。研究課題に関しては基本的に各自の興味関心に基づき設定してもらいます（場合によっては担当教員が提案をすることもあります)。担当教員は各自の興味関心が研究として具体化するための指導を行います。
　心理学の研究を遂行するにあたっては，数多くの論文を読みこなすのは当然ですが，ただ漫然と数をこなすだけではなく，そこで用いられている研究技法や統計解析の理解が欠かせません。そこで，各自が研究課題設定の際に精読した論文で理解が困難な点についての指導を行います。受講者には日常的に多くの研究論文に触れ，自分の中で理解が不明確な点を明確にした上で演習に臨む必要があります。また，具体的な文献検索の方法や統計解析の方法に習熟することも必要です。
　演習の開始段階で論文の提出締切から逆算したスケジューリングを行い，各自の予定を踏まえた上でロードマップを検討します。もちろん，進度に合わせて柔軟に対応しますが，基本的にはこのロードマップに沿う形で研究を進めていくことが強く求められます。

【授業計画】
1年次
・文献検索方法の習得
・論文の読み方
・論文精読を通じた研究計画の具体化
・論文精読を通じた研究方法の理解と習得
・論文精読を通じたデータ分析方法の理解と習得
・データ収集のための準備
・なるべくデータ収集を行い，分析までを行う
・可能であれば，2年次の学会発表に向けた準備を行

う
2年次
・引き続き，関連文献の精読（データ解析および結果解釈のため）
・論文の執筆開始
・１年次に順調に計画が進行している場合には，学会に参加し発表を行う
・進行が遅れている場合には，データ収集および解析を加速化する

【準備学習の内容】
演習開始時点で設定したロードマップに基づき，受講者には毎回の演習において研究の進捗状況を報告することが要求されます。進捗状況に基づき，次回までに達成を要求する課題を課しますので，それをクリアした上で演習に臨んでください。

【課題に対するフィードバック】
発表・報告の際に適宜コメントします。

【テキスト】
予備知識が不足していると思われる方には，自学用として「古谷嘉一郎・村山綾（2022）やってみよう！実証研究入門―心理・行動データの収集・分析・レポート作成を楽しもう　ナカニシヤ出版」および「浦上昌則・脇田貴文（2020）心理学・社会科学研究のための調査系論文の読み方　改訂版　東京書籍」を推奨します。これらの内容を理解できていることが，修士論文作成におけるスタートラインとしての一つの指標になります。

【参考文献】
適宜紹介します。

【成績評価】
演習における発表内容や研究の進捗状況，完成した修士論文の内容を総括的に評価します。

【その他】
基本的に，在学中に最低１回は学会での発表を行って頂くことを前提に指導を行います。在学中にままならない場合でも，修了後には研究成果を発表してください。どの学会で発表するかについては相談の上決定します。
また，研究を遂行していく上では英語や不慣れな統計的知識に触れていくことは避けられません。そのことを前提に本演習に取り組んでください。

〔博士（後期）課程〕

授業科目及び講義要項

授業科目・単位数及び担当者一覧［博士（後期）課程］【2024（令和６）年度以前入学生】

授業科目		単位数	担当者	備考
組織経営関連科目	経営組織論特殊研究Ⅰ	2	大平　義隆	
	経営戦略論特殊研究Ⅰ	2	今野　喜文	
	経営戦略論特殊研究Ⅱ	2		
	経営戦略論特殊研究Ⅲ	4		２年次開講
	経営戦略論特殊研究Ⅳ	4		３年次開講
	国際経営論特殊研究Ⅰ	2	菅原　秀幸	
	国際経営論特殊研究Ⅱ	2		
	国際経営論特殊研究Ⅲ	4		２年次開講
	国際経営論特殊研究Ⅳ	4		３年次開講
	現代企業論特殊研究Ⅰ	2	石嶋　芳臣	
	現代企業論特殊研究Ⅱ	2		
	現代企業論特殊研究Ⅲ	4		２年次開講
	現代企業論特殊研究Ⅳ	4		３年次開講
	企業と社会特殊研究Ⅰ	2	春日　　賢	
	企業と社会特殊研究Ⅱ	2		
	企業と社会特殊研究Ⅲ	4		２年次開講
	企業と社会特殊研究Ⅳ	4		３年次開講
	マーケティング・マネジメント特殊研究Ⅰ	2	伊藤　友章	
	マーケティング・マネジメント特殊研究Ⅱ	2		
	マーケティング・マネジメント特殊研究Ⅲ	4		２年次開講
	マーケティング・マネジメント特殊研究Ⅳ	4		３年次開講
	マーケティング・コミュニケーション特殊研究Ⅰ	2	下村　直樹	
	マーケティング・コミュニケーション特殊研究Ⅱ	2		
	マーケティング・コミュニケーション特殊研究Ⅲ	4		２年次開講
	マーケティング・コミュニケーション特殊研究Ⅳ	4		３年次開講
	非営利事業論特殊研究Ⅰ	2	菅原　浩信	
	非営利事業論特殊研究Ⅱ	2		
	非営利事業論特殊研究Ⅲ	4		２年次開講
	非営利事業論特殊研究Ⅳ	4		３年次開講
組織情報関連科目	財務会計論特殊研究Ⅰ	2	高木　裕之	
	経営情報論特殊研究Ⅰ	2	天笠　道裕	
	経営情報論特殊研究Ⅱ	2		
	経営情報論特殊研究Ⅲ	4		２年次開講
	経営情報論特殊研究Ⅳ	4		３年次開講
	情報コミュニケーション論特殊研究Ⅰ	2	福永　　厚	
	情報コミュニケーション論特殊研究Ⅱ	2		
	情報コミュニケーション論特殊研究Ⅲ	4		２年次開講
	情報コミュニケーション論特殊研究Ⅳ	4		３年次開講

（次頁につづく）

（前頁より）

授業科目		単位数	担当者	備考
組織心理関連科目	組織心理学特殊研究Ⅰ	2	増地あゆみ	
	組織心理学特殊研究Ⅱ	2		
	組織心理学特殊研究Ⅲ	4		2年次開講
	組織心理学特殊研究Ⅳ	4		3年次開講
	行動意思決定論特殊研究Ⅰ	2	鈴木　修司	
	行動意思決定論特殊研究Ⅱ	2		
	行動意思決定論特殊研究Ⅲ	4		2年次開講
	行動意思決定論特殊研究Ⅳ	4		3年次開講
	学習心理学特殊研究Ⅰ	2	佐藤　　淳	開講せず
	学習心理学特殊研究Ⅱ	2		開講せず
	学習心理学特殊研究Ⅲ	4		令和7･8年度　開講せず(2年次)
	学習心理学特殊研究Ⅳ	4		令和7･8年度　開講せず(3年次)
	認知心理学特殊研究Ⅰ	2	浅村　亮彦	
	認知心理学特殊研究Ⅱ	2		
	認知心理学特殊研究Ⅲ	4		2年次開講
	認知心理学特殊研究Ⅳ	4		3年次開講
	臨床心理学特殊研究Ⅰ	2	田中　勝則	
	臨床心理学特殊研究Ⅱ	2		
	臨床心理学特殊研究Ⅲ	4		2年次開講
	臨床心理学特殊研究Ⅳ	4		3年次開講
論文指導科目	論文指導Ⅰ	2	各担当教員	3年次開講※
	論文指導Ⅱ	2		3年次開講※
	論文指導Ⅲ	2		3年次開講※

※論文指導Ⅰ・Ⅱ・Ⅲの開講学期については各担当教員に確認してください。

経営組織論特殊研究Ⅰ　2単位

大　平　義　隆

【テーマ】
組織の「社会文化的差違」の基礎研究

経営組織論では組織文化の研究が，主に企業の業績との関係で重要視され，盛んに行われている。この組織文化の研究では，同業他社を含め，個別企業間の差違を対象にするものである。従って，社会文化的な差違が存在した場合，これを無警戒に包含してしまうため，何らかの手だてが必要になる。

社会文化的な差違とはいかなるものか。例えば日本的経営論が叫ばれて以来，日米の管理スタイルの違いとして，我が国が全体尊重型であり，米国が個人尊重型である，といわれる。こうした差違は，企業行動の差違としてだけ観察した場合，行動の差違と企業制度の差違が結びつけられてきた。ところが，こうした差違が，企業制度以外の社会全般に見られる差違であることが分かってきた。

従来,「文化的な差違」と有耶無耶にされてきたこのことは，なんらかの継続的なメカニズムをもち，継続的な人間行動として発現している。本研究では，こうした問題全体の学習を受講者に求める。

【授業の到達目標】
受講者はテーマにした組織問題を，そのメカニズムを研究理解することを通して明確にし，さらに問題解決の工夫を提案することができるようになる。

【準備学習の内容】
経営組織論，経営管理論，経営行動論の基礎と応用を十分に学ぶこと。興味ある拡張する分野，例えば組織心理学，組織社会学，社会心理学の基礎をできれば学んでおいてほしい。加えて日米の集団，組織における相互作用と制度の違いを認識し，その差異を形成するメカニズムを理解しておくこと。

【課題に対するフィードバック】
報告・発表の際に適宜コメントする。

経営戦略論特殊研究Ⅰ　2単位

今　野　喜　文

【テーマ】
ダイナミックな競争戦略に関する研究

【授業の到達目標】
博士論文を作成するための基本を修得すること。

【授業概要】
競争戦略研究は，1980年代から1990年代初頭にかけて台頭したポジショニング・アプローチ，資源ベース・アプローチ，能力ベース・アプローチといった3つの戦略アプローチから，1990年代以降に台頭した競争のダイナミクスにフォーカスするゲーム・アプローチ，ダイナミック・ケイパビリティ・アプローチといった戦略アプローチへと発展してきた。たとえば，ダイナミック・ケイパビリティ・アプローチが扱う問題は，イノベーション，アントレプレナーシップ，進化，知識，学習，提携，買収，企業成長，企業境界，共進化，エコシステム等，多岐にわたっている。これらは今日の競争戦略研究において極めて重要な問題である。この点では,これまでの競争戦略研究を振り返ることは，より深く豊かな研究を進める上で必要不可欠な作業であるといえる。

本研究では,こうした一連の競争戦略研究をもとに，より発展的な研究テーマを模索し，博士論文のテーマ選定および準備を進めることが目的である。

【授業計画】
1．経営戦略に関わる基本的な論文・文献の研究
2．博士論文のテーマ設定
3．博士論文の作成準備

【準備学習の内容】
研究テーマに合致する文献・論文をできる限り読み込んでおくこと。

【課題に対するフィードバック】
報告・発表の際に適宜コメントする。

【成績評価】
論文内容と授業中の発言などにより評価する。

【テキスト】
特になし。

【参考文献】
講義で適宜紹介する。

経営戦略論特殊研究Ⅱ　2単位
経営戦略論特殊研究Ⅲ　4単位
経営戦略論特殊研究Ⅳ　4単位
論文指導Ⅰ/論文指導Ⅱ/論文指導Ⅲ　2単位/2単位/2単位

今　野　喜　文

【テーマ】
ダイナミックな競争戦略に関する研究

【授業の到達目標】
博士論文の作成と報告

【授業概要】
本研究の目的は博士論文の作成である。この目的を達成するために，本研究では博士論文の研究テーマの選定，研究テーマに沿った先行研究の検討，研究仮説の設定と検証等，博士論文を作成する上で必要となるプロセスを確実に進める。

研究テーマについては，イノベーション，アントレプレナーシップ，ベンチャー・中小企業，学習，アライアンス，M＆A，ビジネス・エコシステム等のさまざまなテーマにも対応する。もちろん，研究テーマは上記に限定されるものではない。基本的には履修者とよく話し合いながら研究テーマを選定し，優れた博士論文の作成に向けて指導したい。

【授業計画】
1．博士論文のテーマ設定
2．博士論文のテーマに関連する論文・文献の研究
3．博士論文の作成と報告

【準備学習の内容】
自分の研究テーマに合致する文献・論文をできる限り読み込んでおくこと。

【課題に対するフィードバック】
報告・発表の際に適宜コメントする。

【成績評価】
論文内容と授業中の発言などにより評価する。

【テキスト】
特になし。

【参考文献】
講義で適宜紹介する。

国際経営論特殊研究Ⅰ　2単位

菅　原　秀　幸

【テーマ】
企業活動のグローバル化にともなう諸課題の理論的・実証的研究

企業が国境を超えてグローバル展開を進めるにつれて，これまでとは異なる数々の新しい課題に直面しています。本講義の目的は，これらの中から主要ないくつかのトピックスを取り上げ，それらについて，歴史的，理論的，実証的視点から分析することです。

まず文献研究を中心として，ダイナミックに展開される今日のグローバル･ビジネスの全体を俯瞰します。その上で，受講生の関心領域に焦点を絞って，論文執筆のための理論的・実証的分析枠組みを検討します。

それに基づいて，working paper を執筆し，受講生自身の研究用ウェブサイトを立ち上げて，諸外国の研究者や分析対象企業と，インターネットを活用してコミュニケーションをとって研究を進めていきます。その過程で論文執筆に向けて，分析枠組みの精緻化を図っていきます。

予定している主要トピックスは，以下の７つです。(1)グローバル企業の CSR，(2)グローバル企業による BOP ビジネス，(3)グローバル企業の世界戦略，(4)グローバル企業におけるダイバーシティ･マネジメント，(5)グローバル企業のマーケティング戦略，(6)新興国におけるグローバル・ビジネス，(7)非製造業企業のグローバル戦略

【授業の到達目標】
取り上げた研究論文（英語）の内容の完全理解と，そこからの発展的思考。

【準備学習の内容】
授業でとりあげるテーマに関して，事前に指示した研究論文（英語）を読んでから出席。

【課題に対するフィードバック】
報告・発表の際に適宜コメントする。

【テキスト】
開講時に受講生と相談の上，決めます。基本的にはオンライン・データベースから入手する学術論文を使用します。

国際経営論特殊研究Ⅱ　2単位
国際経営論特殊研究Ⅲ　4単位
国際経営論特殊研究Ⅳ　4単位
論文指導Ⅰ/論文指導Ⅱ/論文指導Ⅲ　2単位/2単位/2単位

菅　原　秀　幸

【テーマ】

21世紀型グローバル経営の探求

本演習の目的は，「21世紀型グローバル経営」について多方面から分析し，博士論文執筆をめざす博士後期課程の大学院生に対して，論文指導を行うことです。

21世紀のグローバル企業には，経済的価値に加えて，社会的価値ならびに環境的価値の創造が求められています。21世紀型ビジネスの議論は緒に就いたばかりですが，それだけにきわめて挑戦的な課題にあふれています。

ダイナミックに展開されるグローバル・ビジネスの最前線を肌で感じながら，実践的視点からの分析を通して博士論文の完成を目指します。

【授業の到達目標】

博士論文の完成

【準備学習の内容】

事前に指示した研究論文を読んでから出席。

【課題に対するフィードバック】

報告・発表の際に適宜コメントする。

現代企業論特殊研究Ⅰ　2単位

石　嶋　芳　臣

【テーマ】

社会科学としての企業論と経営学方法論

【授業の到達目標】

①社会科学方法論に関する理解を深める。
②現代企業諸理論に関する洞察を深める。

【授業概要】

用語の意味の矮小化，すり替えに気付かず，本来の概念を歪曲して理解していることがある。企業経営に関していえば，オイルショック以降に行われた人員整理を「合理化」と言い，バブル経済の崩壊以降は「リストラ」と言い換えた。人員整理をリストラと言い換えるとき，因果関係の倒錯が行われている。さらに，粉飾決算や偽装表示，リコール隠しなど企業による違法行為である組織「犯罪」を「不祥事」と呼ぶことがある。企業不祥事（Corporate Scandal）とは，特定の個人が業務や職務と無関係に起こした不正や事故について，その人が所属する企業組織から見てあってはならない出来事を意味している。企業犯罪を不祥事と言い換えるとき，行為の主体は消失し違法行為の結果に対する責任が自覚されることも，経験が内面化されることもない。経験の内面化がない限り，行為に対する責任の内的負担も消失する。主体性の欠如した無自覚な行為がもたらす結果に対する責任の所在は存在しえない。

日本の経営学は，こうした問題に対し如何に立ち向かってきたのだろうか。学としての経営学の責任が問われるところである。

本講では，博士論文の作成に向けて受講者諸氏の方法論的立場を明確にし，一定の理論的立場から個別具体的課題を追究するための準備として，経営学的研究と関連する方法論争，学派，各種アプローチなどを追究する。

【授業計画】

1．科学の考え方，科学哲学，社会科学方法論の検討
2．受講者諸氏の研究テーマに即した先行研究の分析
3．博士論文作成のためのテクニカルな指導・サポート

【準備学習の内容】

①受講者諸氏の研究テーマに即した先行研究の分析。

②受講者諸氏の研究テーマに関連した学問領域の研究。
③配付資料や指定文献の分析と研究。

【課題に対するフィードバック】
報告・発表の際に適宜コメントする。

【テキスト】
特になし。

【参考文献】
必要に応じて，その都度，適宜，指摘・紹介する。

【成績評価】
講義への参加度（発言，発表等）による平常点で評価する。

現代企業論特殊研究Ⅱ　2単位
現代企業論特殊研究Ⅲ　4単位
現代企業論特殊研究Ⅳ　4単位
論文指導Ⅰ/論文指導Ⅱ/論文指導Ⅲ　2単位/2単位/2単位

石　嶋　芳　臣

【テーマ】
現代企業経営論の課題と企業のダイナミズム

【授業の到達目標】
①ケース･スタディや統計分析を科学的に利用できる。
②知の探索と知の深化のバランスを取りつつ経営学の発展に寄与する。

【授業概要】
経営学はその成立以来，現実の経営と応答しつつ展開してきた。企業が直面している諸課題を明らかにし，その対応のあり方や解決の糸口を探ることは経営学に課された重要な役割の１つである。ところが経営学という名の下で，社会的風潮に流されるがまま様々な所説が主張され，もてはやされては廃れていくことがあるのもまた事実である。それはひとえに，日々流転する現実への対処に翻弄され，目新しさを無批判に取り入れることで具体的・実践的課題を対処療法的にクリアしようとしてきたからに他ならない。
本講では，現代企業が直面する様々な時事的問題に潜む本質的課題を各種資料・データの分析，諸学説の批判的検討を通じて理論的・実証的に追究する。

【授業計画】
１．調査・分析のための統計学的手法の検討
２．受講者諸氏の研究テーマに即した先行研究の分析
３．博士論文作成のためのテクニカルな指導・サポート

【準備学習の内容】
①受講者諸氏の研究テーマに即した先行研究の分析。
②受講者諸氏の研究テーマに関連した学問領域の探究。
③配付資料の分析や指定文献の研究。

【課題に対するフィードバック】
報告・発表の際に適宜コメントする。

【テキスト】
特になし。

【参考文献】
必要に応じて，その都度，適宜，指摘・紹介する。

【成績評価】
講義への参加度（発言，発表等）による平常点で評価する。

【その他】
基本的には受講者諸氏の博士論文作成に向けた指導となる。いかなる研究テーマを設定するかは個人の生きる意欲と結びついており，本講のテーマに必ずしも拘束されるものではない。以上の点を踏まえ，優れた博士論文作成の一助となるよう，テクニカルな指導・サポートのほか，研究テーマに即した議論・討論を行う。

企業と社会特殊研究Ⅰ　2単位

春　日　　賢

【テーマ】
「企業と社会」方法論の考察

経営学において一般に「企業と社会」のはじまりとして認知されているのは，古くはシェルドン『経営のフィロソフィー』(1924) であり，その後本格的な研究としてボーエン『ビジネスマンの社会的責任』(1953)，マグガイア『企業と社会』(1963) などがつづいた。また，ハーバードにおけるコールらの企業者史研究は1940年代後半から10年ほど行われたが，そこでの主題も「企業と社会」にあったといえる。経営学上の大きなテーマとして「企業と社会」研究が本格化しはじめるのは，1960年代以降のことである。また，これらに並行する流れとして，制度論的研究がある。企業を社会制度とみなす視点は，ドラッカーにおいてマネジメント概念のもとに集約されるところとなっている。

「企業と社会」研究はそこに含まれる内容を吟味してみれば，きわめて多様かつ広範な領域にわたっている。いうまでもなくそれは企業環境の変化が漸次その範囲・程度にわたって拡大深化していることと相まっているが，ひるがえって現代社会における企業存在の重要性がいや増すとともに，その根本的意義への問いかけが絶えず繰り返されていることの表れでもある。本講義では，いくつかのキー・コンセプトを読み解きながら，社会の中の企業およびマネジメントを検討していく。既存の思考に対する絶えざる問いかけを，受講者に求める。

【授業の到達目標】
博士論文作成に向けた構想と具体的な計画の構築。

【準備学習の内容】
発表担当のいかんにかかわらず，輪読する部分についての質問および自分なりのコメントをしっかり用意しておくこと。その他授業前に疑問に思った点については，できるだけ自分で調べて授業にのぞむこと。

【課題に対するフィードバック】
報告・発表の際に適宜コメントする。

企業と社会特殊研究Ⅱ　2単位
企業と社会特殊研究Ⅲ　4単位
企業と社会特殊研究Ⅳ　4単位
論文指導Ⅰ/論文指導Ⅱ/論文指導Ⅲ　2単位/2単位/2単位

春　日　　賢

【テーマ】
社会制度としてのマネジメント研究

ドラッカーにおいてマネジメントとは，「人間主義」と「機能主義」の統合体である。「人間主義」とは「何をめざすのか」という目的・理念すなわち人間的価値にかかわるものであり，「機能主義」とはかかる価値の実現に向けて「いかに行動するのか」という手段・実践すなわち技術にかかわるものである。手段なき目的が夢想でしかないように，目的なき手段も形骸でしかない。実践なき理念が画餅でしかないように，理念なき実践も虚無でしかない。「人間主義」と「機能主義」，実に各々が両輪として互いに連動してはじめて，マネジメントはマネジメントたりうる。いずれかが欠落しても，もう一方だけで成り立つというものではないのである。

「人間主義」と「機能主義」は，人間性・社会性と効率性・競争性の問題と言い換えることもできる。しかし，マネジメントは「実用の学」を掲げるがゆえに，ややもすれば冷徹な効率性・競争性一方のみに陥ってしまう危険性を常にはらんでいる。私的利益の追求だけを目的とするもの，金もうけの手段，あるいは目的のためには手段を選ばないものといった，資本価値増殖の飽くなき追求体という側面である。管理論としての経営学発展の歴史は，「実用の学」が効率性・競争性を主要課題としてきたことを物語る。そして，それは冷酷かつ非人間的，非人道的なネガティブなものにまで行き着く。昨今の企業不祥事の頻発が，マネジメントが人間性・社会性を副次的にあつかってきた結果とすれば，今まさにマネジメントは自らの存在意義をも大きく問われていることになる。

以上のような視点に立ちながら，本演習では主として社会における企業のあり方，社会的存在としての企業およびマネジメントに関するテーマについて，博士論文の作成をめざす博士（後期）課程の学生に対して，論文指導を行う。既存の思考に対する絶えざる問いかけを，受講者に求める。

【授業の到達目標】
博士論文の作成。

【準備学習の内容】
発表担当のいかんにかかわらず，輪読する部分についての質問および自分なりのコメントをしっかり用意しておくこと。その他授業前に疑問に思った点については，できるだけ自分で調べて授業にのぞむこと。

【課題に対するフィードバック】
報告・発表の際に適宜コメントする。

マーケティング・マネジメント特殊研究Ⅰ　2単位

伊　藤　友　章

【テーマ】
マーケティング戦略の理論的，実証的研究

【授業の到達目標】
・専門分野に関する深い知識を獲得し，それを論文執筆や修了後の職務において，十分に活用できるようになること。
・研究方法論や学説など，専門領域を深めるために必要な知識を，自分のものにする。
・博士論文執筆予定者は，自身の論文の質を少しでも高めるために，本講義を最大限に生かすこと。

【授業概要】
マーケティング戦略研究の中でも特に競争優位確保のための市場競争戦略の研究が中心になる。競争優位確保のロジックに関する議論は競争戦略論においては実に多彩に展開されており，それらはマーケティング戦略の競争対応（競争優位確保）を把握する上でもその理論的な基礎をもたらしてくれる。

競争戦略論における競争優位確保のアプローチはM．E．Porterを中心としたSCPパラダイムをベースにしたポジショニング・ベースの視角とシカゴ学派の影響を受けた資源ベース視角の２つのアプローチに大きく分けられている。前者は市場での自社のポジションの確保という組織の外部に競争優位性（超過利潤の確保）の源泉があると捉えるのに対して，後者は組織内部の経営資源や能力に競争優位の源泉があると捉えている。さらに，資源ベース視角に資源・能力の生成・変化のプロセスといったダイナミックな視点を加えたダイナミック・ケイパビリティ・アプローチ，ポジショニング視角にダイナミックな視点や協力的な行為の可能性を取り入れたゲーム論アプローチなども盛んである。本講義ではこのような競争優位確保のための競争戦略に関するこれまでの様々な学説を整理し，理解を深めていくことを主な目的にする。

また博士論文作成に向けての様々なサポート，指導も，受講生各自のニーズに応じて行っていく予定である。各自の現在の研究についての中間報告なども数回にわたって行っていきたい。

【授業計画】
講義の概要は以下の通りである。
１．戦略論の系譜の全体的理解

2．ポジショニング・ベースの戦略論
3．資源ベースの戦略論
4．ダイナミック・ケイパビリティ論および知識創造理論
5．ゲーム論的戦略論
6．新制度派アプローチと戦略論
7．間接的経営戦略
8．マーケティング戦略への示唆

【準備学習の内容】
・講義で取り上げる箇所について事前に関連図書を読んだり，具体的事例を見つけ出したりしておくこと。
・授業後は，授業内容について振り返るための講義ノートを作成しておく。ノートの体裁等については最初の講義で指定する。
・博士論文執筆予定者は，論文の途中経過，論文に関して直面している問題点や疑問点を丁寧にまとめたうえで出席する。

【課題に対するフィードバック】
報告・発表の際に適宜コメントする。

【成績評価】
・授業内での課題
・出席
・各自の研究テーマの進捗状況

【テキスト】
以下のようなものを考えている。
沼上幹「経営戦略の思考法」日本経済新聞社
沼上幹「市場戦略の読み解き方」東洋経済新報社

マーケティング・マネジメント特殊研究Ⅱ　2単位
マーケティング・マネジメント特殊研究Ⅲ　4単位
マーケティング・マネジメント特殊研究Ⅳ　4単位
論文指導Ⅰ/論文指導Ⅱ/論文指導Ⅲ　2単位/2単位/2単位

伊　藤　友　章

【テーマ】
マーケティング戦略の理論的，実証的研究

【授業の到達目標】
・専門分野に関する深い知識を獲得し，それを論文執筆や修了後の職務において，十分に活用できるようになること。
・研究方法論や学説など，専門領域を深めるために必要な知識を，自分のものにする。
・博士論文執筆予定者は，自身の論文の質を少しでも高めるために，本講義を最大限に生かすこと。

【授業概要】
競争優位の確保は，その源泉を市場でのポジションで捉えるにせよ，組織内部の資源や能力で捉えるにせよ，それらがもたらす企業の提供物に対して顧客（消費者）がどのように評価し，競合の中からどのような選択（意思決定）を行うのかにかかっていることはいうまでもない。消費者の評価・選好・選択に関わる局面については，マーケティング論，消費者行動論で多数の蓄積があるはずである。

戦略論とマーケティング（消費者行動論を含む）との間に明確な境界線はほとんどなくなってきていることは，戦略的マーケティングという概念が出現した約30年前より国内外のマーケティング研究の世界において指摘されていることである。にも関わらず，今日に至るまで競争戦略論，マーケティング戦略論，消費者行動論のそれぞれの知見を結びつけるような研究は十分になされているとは言い難い状況である。本講義では，以下の書籍を通じて，マーケティングと消費者行動のこれまでの議論を振り返り，市場あるいは顧客対応を中心にした競争優位確保のロジックを検討し，競争戦略およびマーケティング戦略の新たな枠組みを探ることを目的とする

また特殊研究１と同様に，博士論文作成に向けての様々なサポート，指導も，受講生各自のニーズに応じて行っていく予定である。各自の現在の研究についての中間報告なども数回にわたって行っていきたい。

【授業計画】
講義の概要は以下の通りである。
１．マーケティング戦略の概要
２．消費者行動とマーケティング戦略

3．消費者購買意思決定の理論（情報処理パラダイムを含む）
4．消費者間相互作用の理論（口コミ他）
5．市場志向の戦略論
6．市場ドリブン戦略と市場ドライビング戦略
7．顧客関係性管理
8．消費者起点のイノベーション
9．まとめ

【準備学習の内容】
・講義で取り上げる箇所について事前に関連図書を読んだり，具体的事例を見つけ出したりしておくこと。
・授業後は，授業内容について振り返るための講義ノートを作成しておく。ノートの体裁等については最初の講義で指定する。
・博士論文執筆予定者は，論文の途中経過，論文に関して直面している問題点や疑問点を丁寧にまとめたうえで出席する。

【課題に対するフィードバック】
報告・発表の際に適宜コメントする。

【成績評価】
・授業内での課題
・出席
・各自の研究テーマの進捗状況

【テキスト】
以下のようなものを考えている。
G. S. Day & C. Mooreman., *Strategy from the Outside In.*, McGrawhill
清水聰「日本発のマーケティング」千倉書房

マーケティング・コミュニケーション特殊研究Ⅰ　2単位

下　村　直　樹

【テーマ】
マーケティング・コミュニケーションに関する研究

【授業の到達目標】
博士論文の作成に向けて，マーケティング・コミュニケーションに関する知識をさらに深めます。

【授業概要】
広告，セールス・プロモーション，パブリシティ，人的販売，ダイレクト・マーケティングといったマーケティング・ミックスにおけるプロモーションに含まれるものが，これまでのマーケティング･コミュニケーションで扱う領域でした。

しかしながら，広告は伝統的な広告の定義で規定されているペイドメディアだけでなく，オウンドメディア（代表的なものとして，ウェブサイトやソーシャルメディアのアカウント）も消費者にとっては広告と認識されているため，広告の捉え方は変化しています。また，それらを通じていかに消費者，そして，消費者間に企業が発信する情報を伝播させるかという点においては，くちコミも領域の視野に入ります。

さらには，マーケティング・コミュニケーションの対象となる人が消費者のみならず，利害関係者と捉えるならば，彼らとの良好な関係を構築するパブリック・リレーションズも領域の視野に入ります。パブリック･リレーションズは本来マーケティング･コミュニケーションとは別の分野に入るものでした。

つまり，研究対象となるマーケティング・コミュニケーションの範囲は伝統的なプロモーションに規定される手段の部分から拡大しています。

そして，研究の理論的前提として，必要に応じてですが，消費者行動論，社会心理学，行動経済学，社会学など成果も取り入れます。

マーケティング･コミュニケーションは，マーケティングはもちろんですが，コミュニケーションという観点を意識することが研究を進める上で必須となります。

【授業計画】
・広告（ペイドメディア，オウンドメディア）
・広告効果
・セールス・プロモーション
・パブリック・リレーションズ

※上記の中から，履修者の研究テーマに合わせて取り上げるものを決めて進めます。ここにないものは，相談になります。

【準備学習の内容】
テキストがあるなしにかかわらず，履修者は授業までに該当範囲に関するレジュメや PowerPoint を用意します。

【課題に対するフィードバック】
履修生の報告に対して毎回コメントを行います。

【テキスト】
履修者と相談の上で決めます。なしの場合もあります。

【参考文献】
授業計画の中で取り上げるものが決まりましたら，適宜紹介します。

【成績評価】
報告や発言内容，レポート等の提出物を元に総合的に判断します。

【その他】
欠席する場合は，講義時間の開始前までに必ず担当教員に連絡してください。

マーケティング･コミュニケーション特殊研究Ⅱ　2単位
マーケティング･コミュニケーション特殊研究Ⅲ　4単位
マーケティング･コミュニケーション特殊研究Ⅳ　4単位
論文指導Ⅰ/論文指導Ⅱ/論文指導Ⅲ　2単位/2単位/2単位

下　村　直　樹

【テーマ】
マーケティング・コミュニケーションに関する研究

【授業の到達目標】
受講生は博士論文を執筆し，完成させます。

【授業概要】
　マーケティング・コミュニケーションの範囲には，広告，セールス・プロモーション，人的販売，パブリシティ，ダイレクト・マーケティングといったマーケティング・ミックスにおけるプロモーションの部分が該当するミクロの視点，コミュニケーションの観点から製品，価格，流通，さらには，マーケティング全体を検討するマクロの視点があります。また，マーケティング・コミュニケーションとやや重なるものとしてパブリック・リレーションズもあります。本講義の履修生はこれらの範囲から，博士論文の研究テーマを選ぶこととなります。
　研究テーマが決定したら，所属学会の部会や全国大会での報告，学内論集や学会誌への論文の投稿などを行いつつ，博士論文を執筆し，完成させます。

【授業計画】
博士論文の完成に向けて，受講生は研究テーマの進捗状況を発表します。その中で，研究に関する方法論（統計分析の手法）なども習得します。研究を進めるペースについては，担当教員と相談の上で決定します。

【準備学習の内容】
1．受講生が自身のテーマに関して発表に向けてレジュメや PowerPoint を作成します。
2．発表に対して，予想される質問やコメントに対する回答をあらかじめ用意します。

【課題に対するフィードバック】
毎回の発表時に適宜コメントを行います。

【テキスト】
教員から指定するテキストはありません。

【参考文献】
受講生の研究テーマに即したものを適宜紹介します。

【成績評価】
研究テーマの進捗状況に応じて，総合的に判断します。

【その他】
欠席する場合は，講義時間の開始前までに必ず担当教員に連絡してください。

非営利事業論特殊研究Ⅰ　2単位

菅　原　浩　信

【テーマ】
民間非営利組織や公企業のマネジメントに関する理論的・実践的研究

【授業の到達目標】
民間非営利組織や公企業のマネジメントに関する博士論文を作成するための準備を完了させる。

【授業概要】
本研究では，民間非営利組織や公企業のマネジメントについての問題意識に基づき，さらに深化・発展させた博士論文の研究テーマを設定する。

【授業計画】
1．民間非営利組織や公企業のマネジメントに関する論文等の研究
2．博士論文の研究テーマの設定
3．設定された研究テーマに関連する先行研究の検索

【準備学習の内容】
民間非営利組織や公企業のマネジメントに関する論文等（主として事前に指定する）をあらかじめ読んでおく。

【課題に対するフィードバック】
報告・発表の際に適宜コメントする。

【成績評価】
報告内容および議論内容により評価する。

【テキスト】
履修者の問題意識・関心等をふまえて決定する。

【参考文献】
必要に応じて適宜紹介する。

【その他】
特になし。

非営利事業論特殊研究Ⅱ　2単位
非営利事業論特殊研究Ⅲ　4単位
非営利事業論特殊研究Ⅳ　4単位
論文指導Ⅰ/論文指導Ⅱ/論文指導Ⅲ　2単位/2単位/2単位

菅　原　浩　信

【テーマ】
民間非営利組織や公企業のマネジメントに関する理論的・実践的研究

【授業の到達目標】
博士論文を完成させる。

【授業概要】
本研究では，設定された博士論文の研究テーマに沿った理論的・実践的研究をふまえ，博士論文の作成に至るまでの指導を行う。

【授業計画】
1．研究テーマに関連する先行研究のサーベイ，研究仮説の構築，研究方法の検討，研究計画の作成
2．研究に関する進捗状況の報告（学会等での報告準備および報告を含む）
3．博士論文提出に向けた準備

【準備学習の内容】
民間非営利組織や公企業のマネジメントに関する先行研究をあらかじめ検索し，読んでおく。

【課題に対するフィードバック】
報告・発表の際に適宜コメントする。

【成績評価】
報告内容，議論内容および研究成果により評価する。

【テキスト】
特に指定しない。

【参考文献】
必要に応じて適宜紹介する。

【その他】
特になし。

財務会計論特殊研究Ⅰ　　2単位

高　木　裕　之

【テーマ】

企業会計制度の機能に関する研究

本講義では，経営管理の観点から，資本の運用・調達にたいして企業会計制度がどのように機能するのかを，日本の企業会計制度の根幹を築いてきたドイツ企業会計制度を研究対象として論究することを目的としている。

我が国同様，基準性の原則（確定決算主義）を通して商法会計と税務会計が一体の関係をなすドイツ企業会計制度はその性格上法会計制度として特徴づけることができる。企業の資本の運用・調達は国際化する一方で，従来，大企業は国内基準のほかに資本調達する相手国の国内基準を遵守しなければならないという現実に悩まされていた。しかし，資本調達容易化法により，大企業は，国際会計基準または国際的に認められた会計基準に準拠して連結会計を行うことができるようになった。同法は国際展開する大企業の要請に基づいて制定されたのであるが，成文化された内容は法律の解釈を通じて実務，すなわち資本の運用・調達に作用することは従来と同様である。同法の適用対象は連結会計であるが，連結会計が個別会計を前提としていることを鑑みれば，企業会計に関する法律，とりわけ商法典の内容を詳細に吟味し，その成立過程を検討することが大企業の資本の運用・調達の現実的理解にとって必要不可欠であり，税務会計にも影響を及ぼすことを考慮すれば一層重要である。法律の立法過程および解釈は実務界からの影響が強く反映されているのであり，企業の経営管理との関連が常に意識されねばならない。

このように，経営管理の観点を常に念頭に置きながら，資本の運用・調達を企業会計制度との関連で捉えることが必要であり，正規の簿記の諸原則，基準性原則，逆基準性原則を企業会計制度の橋脚概念として捉え，それを通してどのように資本の運用・管理が有効に行われるのかを論究する。

講義の大要は以下のとおりである。

Ⅰ　企業会計制度における橋脚概念
Ⅱ　正規の簿記の諸原則の構造
Ⅲ　基準性原則の制度的役割
Ⅳ　企業会計制度の橋脚概念と経営管理
Ⅴ　ドイツ企業会計制度におけるアングロサクソン系概念の包摂
Ⅵ　資本調達容易化法と大企業の資本調達
Ⅶ　資本市場の国際化と経営管理

【授業の到達目標】

・ジャーマン・フランコ型の会計基準の特徴を理解している。
・アングロサクソン型の会計基準の特徴を理解している。

【準備学習の内容】

・各回のテーマについて，国内外の会計基準を調べる。
・会計基準の背景となる社会・経済状況を調べる。

【課題に対するフィードバック】

報告・発表の際に適宜コメントする。

経営情報論特殊研究Ⅰ　2単位

天　笠　道　裕

【テーマ】
不確実性に対処した科学的方法論に関する研究の遂行

【授業の到達目標】
⑴不確実性に対処したシステムズアプローチを理解する。
⑵これまでに発表されている科学的方法論について考究し，網羅的に理解する。

【授業概要】
経済・経営や社会問題などの大規模・複雑で，かつ，不確実性を伴う問題の本質を把握し，解決するための主要な方法であるシステムズアプローチを中心として，経営管理機能展開のための科学的方法論について，不確実性や情報との関連性を考慮しながら考究する。ここでは，予測法，多属性評価法，システムモデリングとその応用，区間データをもつ重回帰分析，人事評価，企業評価，多属性評価，売価設定などが主要テーマとなる。

【授業計画】
Ⅰ．Prediction method
Ⅱ．Multiple Attribute Decision Making
Ⅲ．Structural Modeling Method
Ⅳ．Multiple Regression Analysis with Interval Data
Ⅴ．Decision Support System
Ⅵ．Decision Support System of Human Resource Management
Ⅶ．Decision Support System of Value Improvement for Products
Ⅷ．Corporate Capability Performance Evaluation
Ⅸ．Decision Support System for Corporate Capability

【準備学習の内容】
先行研究となる文献・論文の収集を網羅的に行っておくこと。さらに，これらに関して，できる限り読み込んでおくこと。

【課題に対するフィードバック】
報告・発表の際に適宜コメントする。

【成績評価】
研究の進捗状況に基づいて総合的に評価する。

【テキスト】
研究テーマに関連する文献を適宜配布する。

【参考文献】
その都度示唆する。

【その他】
特になし

経営情報論特殊研究Ⅱ　2単位
経営情報論特殊研究Ⅲ　4単位
経営情報論特殊研究Ⅳ　4単位
論文指導Ⅰ/論文指導Ⅱ/論文指導Ⅲ　2単位/2単位/2単位

天　笠　道　裕

【テーマ】
不確実性に対処した科学的方法論に関する研究の遂行

【授業の到達目標】
⑴これまでに発表されている，不確実性に対処した科学的方法論を理解し，新しいオリジナリティのある研究論文を作成する。
⑵博士論文を作成する。
⑶学生自身が公刊した学術論文に基づく博士論文の書き方や，学会や国際会議等でのプレゼンテーションの方法を修得する。

【授業概要】
研究テーマを決定し，「経営情報論特殊講義」，「経営情報論特殊講義演習Ⅰ・Ⅱ」等において考究した科学的方法論の限界と新しい科学的方法論の必要性について考察する。さらに，新しい方法論に関する研究を推し進め，研究論文として纏め上げるための研究指導を行う。

このとき，論文審査のための基準等を参考にしながら，論文作成のための手続きや論文の書き方に関する研究指導を行う。さらに，学生自身がそれまでに公刊した学術論文を取り入れた博士論文の書き方や，学会や国際会議等でのプレゼンテーションの方法についても指導する。

【授業計画】
Ⅰ．学生自身が公刊した学術論文の購読と博士論文への展開可能性に関する検討
Ⅱ．学生自身が公刊した学術論文を取り入れた博士論文の書き方
Ⅲ．学会や国際会議等でのプレゼンテーションの方法の学習
Ⅳ．博士論文を展開するための基礎理論の整理
Ⅴ．博士論文の本論の展開
Ⅵ．序論，基礎理論および本論の論理的流れの検討
Ⅶ．序論，基礎理論および本論の論理性およびオリジナリティの検討
Ⅷ．本論文の検証性・実証性
Ⅸ．博士論文の体系的流れの確認
Ⅹ．博士論文の審査基準に照らした検討・評価

【準備学習の内容】
先行研究となる文献・論文の収集を網羅的に行っておくこと。さらに，これらに関して，できる限り読み込んでおくこと。

【課題に対するフィードバック】
報告・発表の際に適宜コメントする。

【成績評価】
研究の進捗状況に基づいて総合的に評価する。

【テキスト】
研究テーマに関連する文献を適宜配布する。

【参考文献】
その都度示唆する。

【その他】
特になし

情報コミュニケーション論特殊研究Ⅰ　2単位

福　永　　厚

【テーマ】
組織の情報コミュニケーションと数学的分析方法

【授業の到達目標】
組織の情報コミュニケーションと数学的分析方法についての知見を得ること。

【授業概要】
　情報コミュニケーションの研究は，企業や行政などの組織体において，情報活動，すなわち情報の収集(input)，処理（processing)，記憶（storage)，検索(access)，提供（output）や組織構成員間のコミュニケーションをより効果的に管理・運営して，組織の各管理者やトップマネジメントの意思決定に貢献することを目的としている。その為には，組織において構成員間でどのようなコミュニケーションが行われ，どのような情報が流れているかを明らかにすることが重要である。構成員に対してアンケートを行ってデータを収集し，構成員間のコミュニケーション関係をネットワークによって表現し，それに対してネットワーク分析を行い，実際の組織階層と比較することについて講義する。

【授業計画】
Ⅰ　情報コミュニケーションとは
Ⅱ　組織コミュニケーション
Ⅲ　数学的手法
Ⅳ　組織コミュニケーションのネットワーク分析
Ⅴ　ネットワークと組織
Ⅵ　情報コミュニケーション・システムの種類と利用状況
Ⅶ　情報コミュニケーション・システムと対面とのコミュニケーション比較分析
Ⅷ　情報コミュニケーション・システムが組織に与える影響について
Ⅸ　情報コミュニケーションの応用

【準備学習の内容】
数学を使うので，線形代数，解析学，確率と統計などの数学の基礎をしっかり固めておくこと。
事前にテキストや資料を読み，質問や意見を整理しておく。

【課題に対するフィードバック】
報告・発表の際に適宜コメントする。

【成績評価】
平常点及び課題の履行状況により評価する。

【テキスト】
テキストは受講者と相談の上，決める。

情報コミュニケーション論特殊研究Ⅱ　2単位
情報コミュニケーション論特殊研究Ⅲ　4単位
情報コミュニケーション論特殊研究Ⅳ　4単位
論文指導Ⅰ/論文指導Ⅱ/論文指導Ⅲ　2単位/2単位/2単位

福　永　　厚

【テーマ】
組織体における情報コミュニケーションの研究

【授業の到達目標】
組織体における情報コミュニケーションについての知見を得ることと研究能力の向上をはかる。

【授業概要】
　本演習の目指すところは，組織における情報の流れや組織構成員間のコミュニケーション関係を明らかにし，そこに存在している問題点を見出して改善案を提案することである。
　組織コミュニケーション上の問題点の改善，特にコミュニケーション・システムの導入による改善について考察する。改善案と従来のシステムとをコミュニケーションに関して比較する実験を行って定量的に評価し，組織における新しいコミュニケーション・システム構築や利用法の提案を行う。以上の一連の分析や考察，提案を学位論文として提出できるように論文指導を行う。

【授業計画】
Ⅰ　実際の企業組織におけるコミュニケーション状況，情報伝達，システムの利用状況についての実態調査
Ⅱ　数学的手法
Ⅲ　データ分析
Ⅳ　ネットワーク分析
Ⅴ　情報コミュニケーション・ネットワークと組織階層との比較考察
Ⅵ　組織コミュニケーション・システムの問題点と改善案
Ⅶ　新しいシステムの提案と定量的評価

【準備学習の内容】
数学を使うので，線形代数，解析学，確率と統計などの数学の基礎をしっかり固めておくこと。
事前にテキストや資料を読み，質問や意見を整理しておく。

【課題に対するフィードバック】
報告・発表の際に適宜コメントする。

【成績評価】
出席と課題の履行状況により評価する。

【テキスト】
受講者と相談の上，テキストを決める。

組織心理学特殊研究Ⅰ　2単位

増　地　あゆみ

【テーマ】
組織と個人の相互作用に関する心理学的問題の検討

【授業の到達目標】
本演習では，博士課程での研究遂行に必要な知識とスキルを習得しながら，研究テーマの設定，先行研究の文献研究，問題と目的の設定を経て，研究計画の作成を目指す。

【授業概要】
　組織における個々の人間行動は，組織の構造や制度，組織文化や組織の目標といった組織のマクロな要因から影響を受ける。また同時に，組織のなかで，個人と個人の間に発生するコミュニケーションや対人葛藤，上司と部下の人間関係など，個人と個人の関わりが組織全体を創り上げている側面もある。このような組織と個人の相互作用のなかで生じる様々な問題のなかから研究テーマを絞り，先行研究についての理解を深め，受講生の研究テーマ設定と研究計画の作成へつなげる。

【授業計画】
1．先行研究の探索と概観
2．問題と目的の整理
3．研究計画の策定と実験・調査の準備

【準備学習の内容】
文献の検索方法や文献の読み方，心理学および組織心理学領域の基礎知識を確認しておく。

【課題に対するフィードバック】
報告・発表の際に適宜コメントする。

【成績評価】
講義中の討論内容および研究成果に基づいて総合的に評価する。

【テキスト】
初回の講義時に受講生との話し合いで決める。

【参考文献】
適宜，紹介する。

組織心理学特殊研究Ⅱ　2単位
組織心理学特殊研究Ⅲ　4単位
組織心理学特殊研究Ⅳ　4単位
論文指導Ⅰ/論文指導Ⅱ/論文指導Ⅲ　2単位/2単位/2単位

増　地　あゆみ

【テーマ】
組織と個人の相互作用に関する心理学的研究の遂行

【授業の到達目標】
本演習では，組織と個人の相互作用に関する心理学的研究を遂行し，その成果を博士論文としてまとめることを目的とする。

【授業概要】
組織はそのなかの個人の行動や考え方に影響を及ぼす。組織のメンバーとなった個人は社会化の過程を通してその役割や立場を獲得し，組織のなかでキャリアを形成する。このとき，組織の構造や制度などのマクロな要因は個人の行動に少なからず影響する。一方，組織における個人と個人の間にもさまざまな問題が存在する。コミュニケーションや対人葛藤，インフォーマルな人間関係の問題などである。これらの個人と個人の関わりあいは組織の文化を形成している。このような組織と個人の相互作用のなかで生じる様々な問題を心理学的に研究し，その成果を博士論文として執筆する。

【授業計画】
1．実験・調査の実施
2．実験・調査データの分析と考察
3．博士論文の作成

【準備学習の内容】
実験･調査のデータ分析に必要な統計的知識を習得し，統計ソフトの使い方に習熟しておく。

【課題に対するフィードバック】
報告・発表の際に適宜コメントする。

【成績評価】
講義中の討論内容および研究成果に基づいて総合的に評価する。

【テキスト】
初回の講義時に受講生との話し合いで決める。

【参考文献】
適宜，紹介する。

行動意思決定論特殊研究Ⅰ　2単位

鈴　木　修　司

【テーマ】
意思決定に関する心理学的研究の精査

【授業の到達目標】
意思決定に関する心理学的研究から得られた知識を整理し，その現状を理解する。

【授業概要】
学生自身の希望に応じた分野の論文を読み，その概観をおこなう。そして，その成果として，総説論文の作成をおこなう。対象となる論文については，心理学的研究が中心となるが，それと関連する他分野の研究についても含める。

意思決定を巡る研究の主要な議論の１つは，合理性に関する問題である。すなわち，ヒトの意思決定は合理的であるか，否か，という問題である。従来，主に経済学を代表とする幾つかの学問分野が意思決定の合理性を主張してきたのに対して，心理学は実証研究を通して合理的ではない事実を数多く，明らかにしてきた。その合理性に関する議論には決着がついてはいないが，一つの事実として合理的な側面と非合理的な側面が意思決定には存在することは確かである。そのため，一方に偏った立場に立つことは，誤った理解に繋がりかねない。合理性と非合理性のそれぞれが出現する条件を明確にし，その心理学的なプロセスを理解することが必要である。広範囲の文献を検討しつつ，学生自身が独自の仮説を構築できるようになることを目指す。

【授業計画】
1．行動的意思決定概観
2．意思決定研究の規範的アプローチと記述的アプローチ
3．意思決定の合理性と非合理性
4．限定合理性とヒューリスティック
5．意思決定における情報処理アプローチ
6．意思決定における計算論的モデル
7．確率と不確実性の判断
8．関係性の判断
9．リスク下での意思決定
10．非リスク下での意思決定
11．異時間選択
12．多属性選択肢に対する意思決定

13. 感情と意思決定の関連性
14. 行動的ゲーム理論
15. 集団的意思決定

【準備学習の内容】
主要な準備は学生自身が対象となる論文を選定することである。そのためには，まず自分の興味や関心を明確にすることが必要である。続いて，それに関連した仮説や現象を特定することである。この段階は先行研究を整理する段階であるので，自分の関心や興味が表現される専門用語やそれに関連した研究手法を知ることが必須である。意思決定に関する研究は心理学以外に，多種多様な分野でおこなわれている。各種のデータベースを利用しつつ，適切な論文を準備するように心がけること。

【課題に対するフィードバック】
報告・発表の際に適宜コメントする。

【成績評価】
平常点

【テキスト】
特に指定しない

【参考文献】
講義内において，適宜，紹介する。

行動意思決定論特殊研究Ⅱ　2単位
行動意思決定論特殊研究Ⅲ　4単位
行動意思決定論特殊研究Ⅳ　4単位
論文指導Ⅰ/論文指導Ⅱ/論文指導Ⅲ　2単位/2単位/2単位

鈴　木　修　司

【テーマ】
行動意思決定論に関する理論的研究と実証的研究

【授業の到達目標】
博士論文の作成に繋がるように，学生の研究活動に貢献することを目標とする。学生自身が自らのテーマに応じて研究をおこなう上で俎上に上がる多くの疑問点や補完すべき点を検討しながら，その解決ができるように努力したい。

【授業概要】
意思決定に関する心理学的内容を取り上げる。その内容には特に制限はない。博士論文の作成にとって必要ならば，心理学領域に留まらず，あらゆる領域の知見がその内容となりうる。その一方で，本講義の目標は博士論文の作成であるから，具体的な講義内容は学生自身の主体的行為によって決定される。各回の講義は担当教員からの一方的な教授ではなく，学生と教員との間の議論によって進行する。
講義ではまず，学生から自身のもつ興味や関心，検討中の仮説，進行中の実験や調査などに関する報告がなされる。それに応じて，教員側から疑問点の指摘，研究上の不足点や欠陥の整理，関連情報の提示，今後の展望についての助言などがおこなわれる。その後，互いの意見交換を通じて，議論を発展させていき，博士論文の作成にとって有益な行為としていく。

【授業計画】
Ⅰ　意思決定に関する興味・関心と研究テーマ
Ⅱ　先行研究の整理と仮説の構築
Ⅲ　研究計画と方法の立案
Ⅳ　研究結果の整理と検討
Ⅴ　博士論文作成への展望

【準備学習の内容】
本講義の主体は学生自身であるから，学生の研究活動自体がその準備である。文献や資料を検索し，その理解に努める。自分の仮説を構築する。仮説を検証するための方法を考案する。そして，それらのために必要な行為，すべてである。学生自身が能動的に行動しなければ，何も始まらない。そのように心がけること。

【課題に対するフィードバック】
報告・発表の際に適宜コメントする。

【成績評価】
平常点

【テキスト】
特に，指定しない。

【参考文献】
講義内において，適宜，紹介する。

認知心理学特殊研究Ⅰ　2単位

浅　村　亮　彦

【テーマ】
認知過程理論とその応用に関する研究の精査

【授業の到達目標】
人間の認知過程に関する具体的な研究課題を定め，研究仮説を設定すること。

【授業概要】
医療機関，建設・土木などのさまざまな作業現場において，ヒューマンエラーに起因する事故や事故に至りかねない事例は少なくない。ヒューマンエラーの特性を解明し，それに基づいた教育訓練を開発することによって，事故を防止することが社会的に求められている。そのヒューマンエラーに関与する様々な要因のうち，ここでは，注意のコントロール，メンタルモデル形成過程などの認知過程の特性と，メタ認知や認知的失敗傾向など，認知過程の個人差の影響から，ヒューマンエラーの発生過程を考察する。また，認知過程の個人差に基づく教育訓練法についても考察する。これらの考察に関連する先行研究を収集，読解した上で，具体的な研究仮説を設定する。

【授業計画】
1．研究仮説に関連する先行研究の収集と整理
2．研究仮説の設定
3．調査または実験計画の具体化

【準備学習の内容】
人間の認知過程に関する研究動向を調べ，最新の研究成果について，その概要を理解しておくこと。

【課題に対するフィードバック】
報告・発表の際に適宜コメントする。

【成績評価】
研究の進捗状況に基づいて総合的に評価する。

【テキスト】
受講者と相談の上，指示する。

【参考文献】
受講者と相談の上，指示する。

認知心理学特殊研究Ⅱ　2単位
認知心理学特殊研究Ⅲ　4単位
認知心理学特殊研究Ⅳ　4単位
論文指導Ⅰ/論文指導Ⅱ/論文指導Ⅲ　2単位/2単位/2単位

浅　村　亮　彦

【テーマ】
認知過程理論とその応用に関する研究の遂行

【授業の到達目標】
人間の認知過程に関する具体的な研究課題について，独自の研究仮説を設定・検証し，その成果を博士論文としてまとめること。

【授業概要】
ヒューマンエラーに関わる独自の研究仮説を設定し，注意のコントロール，メンタルモデル形成過程などの認知過程の特性による影響と，メタ認知など，認知過程の個人差の影響から，ヒューマンエラーの発生過程モデルを設定し，その妥当性を実験的に検討する。さらには，メタ認知の個人差に基づいた，ヒューマンエラー低減訓練法を開発し，その有用性も検証する。これらの研究に関わる実験あるいは調査の実施，成果の公表を行なった上で，それらを博士論文として執筆する。

【授業計画】
1．調査または実験の計画と実施
2．研究成果の公表
3．博士論文の執筆

【準備学習の内容】
受講者自身の研究仮説に関する研究動向を調べ，最新の研究成果について，その概要を理解しておくこと。

【課題に対するフィードバック】
報告・発表の際に適宜コメントする。

【成績評価】
研究の進捗状況に基づいて総合的に評価する。

【テキスト】
受講者と相談の上，指示する。

【参考文献】
受講者と相談の上，指示する。

臨床心理学特殊研究Ⅰ　2単位

田　中　勝　則

【テーマ】
心身の健康の維持・回復・促進に関する臨床心理学的アプローチに基づく研究の精査と力量向上

【授業の到達目標】
この演習では，臨床心理学の視点から博士論文を作成するために必要となる知識や研究スキルを高め，実際にそれらを活用しながら博士論文作成に向けた研究計画の立案に至ることを目標とします。

【授業概要】
　臨床心理学は心身の健康の維持・回復・促進を中心的に取り扱う科学的かつ実践的な学問です。その研究方法も多様かつ広範に渡ります。一方で，これらの研究方法の知識を得るだけでは実際の研究遂行や論文作成を行うことは困難です。
　そこでこの演習では，受講者自身の研究テーマを素材としながら臨床心理学的研究を遂行していくための知識や研究スキル等について体験的な学びを深め，博士論文作成に向けた研究計画を具現化させることを目指します。受講者はこの演習の趣旨を理解した上で能動的かつ積極的に演習への参加のみならず，学外での研究発表や論文投稿などを行うことが必要です。

【授業計画】
1．先行研究の概観およびそれらにおける自身の研究の位置付けの整理
2．博士論文で取り組む研究における技法の習熟
3．1および2を踏まえた博士論文作成における研究計画の立案

【準備学習の内容】
自身の興味関心のある研究領域における先行研究およびそれらを遂行する上で用いられている研究スキル等について事前に数多くの論文を精読し，毎回の演習に臨んでください。

【課題に対するフィードバック】
報告・発表の際に適宜コメントします。

【テキスト】
特に指定しません。

【参考文献】
特に指定しません。

【成績評価】
演習における発表内容や議論等を総括的に評価します。

【その他】
研究を遂行していく上では英語や不慣れな統計的知識に触れていくことは避けられません。そのことを前提に本演習に取り組んでください。

臨床心理学特殊研究Ⅱ　2単位
臨床心理学特殊研究Ⅲ　4単位
臨床心理学特殊研究Ⅳ　4単位
論文指導Ⅰ/論文指導Ⅱ/論文指導Ⅲ　2単位/2単位/2単位

田　中　勝　則

【テーマ】
心身の健康の維持・回復・促進に関する臨床心理学的アプローチに基づく研究の遂行

【授業の到達目標】
この演習では，臨床心理学的な視点から心身の健康の維持・回復・促進に関する研究を遂行し，その成果を博士論文として結実させることを目標とします。

【授業概要】
臨床心理学は心身の健康の維持・回復・促進を中心的に取り扱う科学的かつ実践的な学問です。この領域で得られた研究成果については，学術的評価を得ることに加え，私たちが生活する社会において如何に有用であるかという実践的な側面からも評価を求められます。

以上のような観点を踏まえ，本演習では履修者各自が設定した研究テーマに基づき博士論文を完成させることを目標とします。博士論文の作成を通じ各自の研究テーマに精通することはもちろん，分野を超えた普遍的な課題発見能力を涵養することもこの演習で目指すところとなります。

【授業計画】
1．博士論文作成において必要となる調査，面接等によるデータ収集と分析
2．分析結果に基づく考察の検討
3．研究成果の公表
4．1，2，3を踏まえた博士論文の作成

【準備学習の内容】
研究成果を公表することを前提に，日々の生活の中で自身の興味関心のある研究領域における先行研究およびそれらを遂行する上で用いられている研究スキル等について事前に数多くの論文を精読し，毎回の演習に臨んでください。

【課題に対するフィードバック】
報告・発表の際に適宜コメントします。

【テキスト】
特に指定しません。

【参考文献】
特に指定しません。

【成績評価】
演習における発表内容や研究の進捗状況，完成した博士論文の内容を総括的に評価します。

【その他】
基本的に，在学中には最低年に1回は学会での発表を行って頂くことを前提に指導を行います。また，修士論文の成果をベースに，博士（後期）課程在籍1年目から査読付きの学術論文の投稿を進めていくことが可能であることが望ましいです（難しい場合は個別に応相談）。

また，研究を遂行していく上では英語や不慣れな統計的知識に触れていくことは避けられません。そのことを前提に本演習に取り組んでください。